

高千穂町文化財調査報告書第4集

梅^{うめ}ノ木^の原^{きはら}遺跡

県道緒方・高千穂線特殊改良工事
に伴う発掘調査報告書

1985

官崎県西臼杵支庁
高千穂町教育委員会

高千穂町文化財調査報告書第4集

梅^{うめ}ノ^の木^き原^{ばる}遺跡

県道緒方・高千穂線特殊改良工事
に伴なう発掘調査報告書

1985

宮崎県西臼杵支庁
高千穂町教育委員会

序

ここに、高千穂町文化財調査報告書第4集「梅ノ木原遺跡」を刊行いたします。

本報告書は、昭和59年度に宮崎県西臼杵支庁の委託を受けて実施した、県道緒方・高千穂線特殊改良第一種工事区内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査の記録です。

調査の結果、縄文時代後・晩期の遺物並びに弥生時代後期の遺構が検出されましたが、本書が学術資料として、また、社会教育・学校教育の教材研究として広く活用していただければ幸いです。

尚、本書の刊行にあたり、現地調査から報告書発刊まで御苦勞いただきました県文化課の長津宗重氏に深甚の謝意を表するとともに、宮崎県西臼杵支庁、高千穂産業圏、上川登公民館、並びに町民各位の積極的な御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

昭和60年3月

高千穂町教育委員会

教育長 後藤辰男

例 言

1. 本書は、昭和59年度に宮崎県西臼杵支庁の委託を受けて実施した、県道緒方・高千穂線特殊改良第一種工事区内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書である。
2. 調査は、高千穂町教育委員会が調査主体となり、宮崎県教育委員会が調査員を派遣して実施した。
3. 遺物の復元・実測図作成・トレースは 荒木慶子・荒武望恵・加藤泰子・佐々木ゆみ子・野村涼子・日野美智子・松岡邦子の協力を頂いた。
4. 本書の執筆は、田尻・長津が分担し、文責については目次に明記している。
5. 本書の編集は長津が当った。
6. 土器の色調は農林省農林水産技術会事務局監修の標準土色帖による。本報告の方位は磁北である。またレベルは海拔絶対高である。

本文目次

第Ⅰ章 序 説

1. 発掘調査に至る経緯 (田尻) 1
2. 梅ノ木原遺跡周辺の歴史的環境 (長津) 1

第Ⅱ章 遺構と遺物 (長津)

1. 調査区の設定と概要 8
2. 包含層の状態 8
3. 縄文時代の遺構と遺物 8
4. 弥生時代の遺構と遺物 41

第Ⅲ章 ま と め (長津) 45

挿 図 目 次

- 第1図 遺跡分布図 3
- 第2図 高千穂町内の縄文時代遺物実測図 6
- 第3図 高千穂町内の弥生・古墳時代遺物実測図 7
- 第4図 地 形 図 9
- 第5図 遺構分布図 11~12
- 第6図 A・B地区土層断面図 13
- 第7図 縄文土器実測図 (Ⅰ) 15
- 第8図 縄文土器実測図 (Ⅱ) 16
- 第9図 縄文土器実測図 (Ⅲ) 17
- 第10図 縄文土器実測図 (Ⅳ) 18
- 第11図 縄文土器実測図 (Ⅴ) 19
- 第12図 縄文土器実測図 (Ⅵ) 20
- 第13図 石器実測図 (Ⅰ) 31
- 第14図 石器実測図 (Ⅱ) 32
- 第15図 石器実測図 (Ⅲ) 33

第16図	石器実測図 (Ⅳ)	34
第17図	石器実測図 (Ⅴ)	35
第18図	石器実測図 (Ⅵ)	36
第19図	石器実測図 (Ⅶ)	37
第20図	石器実測図 (Ⅷ)	38
第21図	1号竪穴住居跡実測図	42
第22図	弥生土器実測図	43
第23図	磨製石鏃実測図	43
第24図	陣内・梅ノ木原・学園都市遺跡出土土器の Rb-Sr 分布図	46

表 目 次

第1表	遺跡地名表	4
第2表	縄文土器観察表	21
第3表	石器観察表 (Ⅰ)	39
第4表	石器観察表 (Ⅱ)	41
第5表	弥生土器観察表	44
第6表	梅ノ木原遺跡出土縄文土器編年案対比表	45

図 版 目 次

図版1	梅ノ木原遺跡空中写真
図版2	発掘調査状況と縄文土器 (Ⅰ)
図版3	縄文土器 (Ⅱ)
図版4	縄文土器 (Ⅲ)
図版5	縄文時代の石器 (Ⅰ)
図版6	縄文時代の石器 (Ⅱ)
図版7	弥生時代の住居と遺物

第 I 章 序 説

1. 発掘調査に至る経緯

県道緒方・高千穂線特殊改良第一種工事は1981年より1984年にかけて行われる継続事業であり、事業区内にかかる埋蔵文化財包蔵地である梅ノ木原遺跡が存在するため、高千穂町教育委員会は宮崎県西臼杵支庁及び県文化課と事前協議を行った。

協議の結果、工事計画変更が困難であるため、県文化課により1981年7月30日から8月3日まで事業区内にかかる遺跡の状況について確認調査が行われた。調査の結果、地積土中から三万田式、御領式、黒色磨研などの縄文土器のほか、打製石斧、石鏃などの石器が出土し、縄文時代後期後半から晩期にかけての遺物包蔵地として確認されたため、着工前に発掘調査を行い、記録保存の措置をとることになった。

発掘調査は、高千穂町教育委員会が調査主体となり、県文化課長津宗重主任主事が担当し、1984年9月3日から28日まで実施した。

調査主体

高千穂町教育委員会

教育長	後藤辰男
教育次長	久嶺道雄
社会教育課長補佐	田崎雅彦
〃〃主任主事	田尻隆介(担当)
調査員	長津宗重(県教育庁文化課主任主事)

事業主体

宮崎県西臼杵支庁

支庁長 青井正彰

地元協力

上川登公民館

2. 梅ノ木原遺跡周辺の歴史的環境

高千穂町は九州のほぼ中央部、宮崎県の最北西端に位置し、九州の屋根と呼ばれる九州山地の中にあって、巨大な盆地を形成している。盆地内には本流をなす五ヶ瀬川の小支流によって開折された谷間が多くの起伏をつくるとともに、川を挟んだ台地は、ほぼ同じような等高線を示しており、遺跡は標高300～400mの五ヶ瀬川に臨む丘陵の南側斜面に多く立地する。

梅ノ木原遺跡は、高千穂町の中心から北東へ約2.8km離れた岩戸川を南に臨む丘陵と山地の転換点に位置し、以前から縄文土器や打製石斧・石鏃が表採されていた周知の遺跡である。⁶⁾梅ノ木原遺跡の歴史的環境を知るために、町内の遺跡を時代順に概観する。

旧石器時代

表採された遺物や発掘調査はないが、尖頭器・石核・ナイフ形石器を出土した出羽洞穴⁹⁰（日之影町）が調査されており、またセベツト遺跡⁹¹では黄褐色土層上層の黒色土層の最下面から舌部の退化した有舌尖頭器が出土しているので、当地域においても将来確認される可能性がある。

縄文時代

早期の遺跡としては、三田井地区の川登ヨガ堂・小河内・陣内車迫・上原平、押方地区の五ヶ村板屋・下押方、岩戸地区の五ヶ村、田原地区の河内西、北萱場地区の薄糸平・小川内が知られていた。⁹²1982年の遺跡詳細分布調査によって三田井地区の尾谷遺跡（田村式）、押方地区の東平遺跡（楕円押型文、山形押型文、田村式）、岩上遺跡（楕円押型文）が確認された。⁹³前期の土器は陣内遺跡で出土している。⁹⁴日向における中期遺跡の稀薄性のためか、当地においても中期土器は確認されていない。後・晩期になると三田井地区の浅ヶ部・陣内ダミチ・陣内車迫・御塩井・高千穂高校・高千穂小学校、押方地区の五ヶ村板屋・下押方など遺跡数が増大する。⁹⁵その代表的な陣内遺跡は、1956年7月に神道文化会の調査、1960年9月に県教育委員会、1980年2月に町教育委員会により発掘調査が行なわれた。住居跡等の生活遺構は確認されていないが、土偶・石棒・石刀などの呪術的な道具が出土している。本来の生活遺構は上の台地の陣内第二遺跡に存在する可能性が大である。竪穴住居はセベツト遺跡で長軸3.30m、短軸2.60mの楕円形プランが1軒検出され、晩期前半に比定されている。⁹⁶遺跡の分布の中心は三田井・押方・尾谷地区であり、立地の良い所にはすべて遺跡が形成されている。

弥生時代

前期の遺跡は知られていないが、東隣の日ノ影町布平では夜臼式の甕が出土している。中期になると遺跡が形成されはじめ、逆L字状口縁の丹塗磨研の須玖式の甕を出土した押方第3遺跡（C地点）、⁹⁷1977年発掘調査が行なわれ下城式・須玖式の甕を出土した薄糸平遺跡などがある。東京国立博物館蔵の岩戸出土の丹塗磨研の甕形土器と口縁部に円形浮文と連続三角文の刻みを施し、胴部と頸部に13条の突帯を施した壺形土器も知られている。⁹⁸後期の遺跡としては薄糸平遺跡と当遺跡が調査された。薄糸平遺跡では、ミミズバレ状の突帯を工字に配する甕形土器や免田式の壺などが出土したが、住居跡等の生活遺構は確認されていない。免田式の壺は柚木野でも出土している。⁹⁹当遺跡では、ミミズバレ状の突帯を工字に配する甕を伴う方形プランの竪穴住居が初めて一軒検出された。当時期の墓地はまだ確認されていないが、大萩遺跡（野尻町）の土壊墓、朴木遺跡（高崎町）の石蓋土壊墓、川床遺跡（新宮町）の土壊墓・木棺墓、東平下遺跡（川南町）の周溝墓など県内各地で種々な墓制が調査されており、当地域にどのような墓制が採用されているのか興味深い。方形石廂丁・無茎磨製石鎌・打製石鎌という石器のセット関係及びミミズバレ状の突帯を工字に配する甕形土器が五ヶ瀬川上流から大野川上・中流域という九州山岳地帯に分布することから畑作が想定されている。また明治初年における当地域の水田と畑の割合が1対6¹⁰⁰ということを鑑みても、畑作（焼畑を含めて）がかなりの比重を占めていたことは首肯されよう。

古墳時代

生活遺構である竪穴住居は調査されていないが、前方後円墳2基・円墳24基・横穴墓89基が台帳に記載されている。¹⁰¹前方後円墳として指定されている高千穂45号墳と吾平山陵については自然丘の可能性もあり、確定できない。円墳についても調査されていないが、横穴墓はかなり調査されている。横



梅ノ木原遺跡 (1063)

第1図 遺跡分布図 (縮尺1/25000)

第1表 遺跡地名表

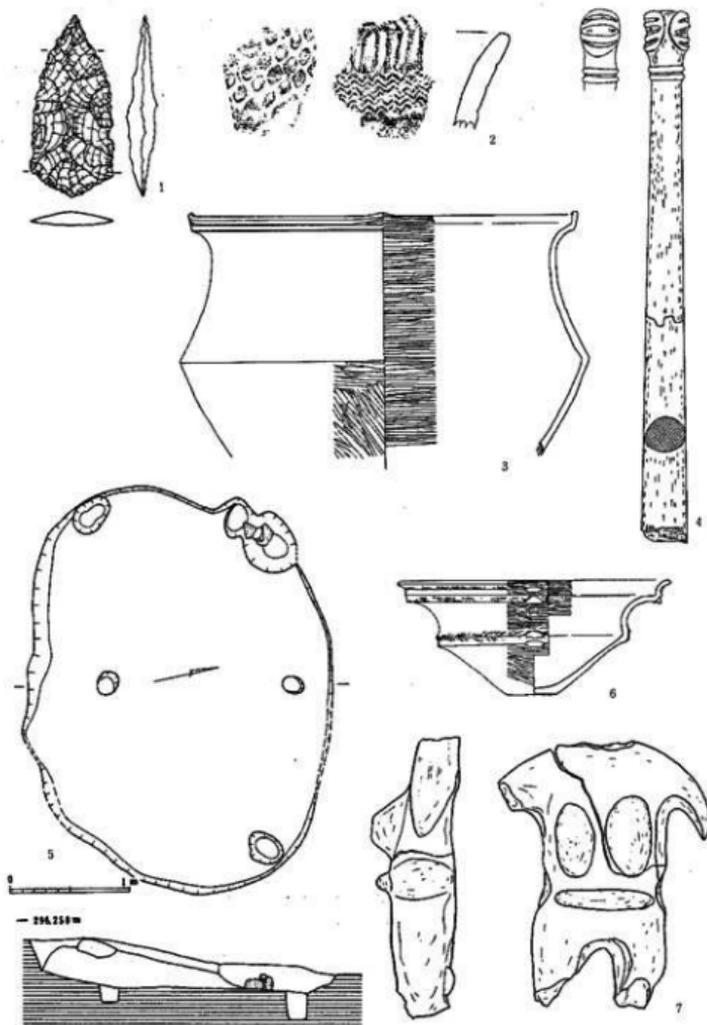
遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代
1014	高千穂 48号墳	大字三田井尾谷	古墳(円)	古墳時代
1015	高千穂 55号墳	大字三田井字桑水流	横穴	古墳時代
1016	高千穂 3号墳	大字三田井字栃又	横穴	古墳時代
1017	高千穂 4号墳	大字三田井字栃又	古墳(円)	古墳時代
1048	柿ノ木水流遺跡	大字三田井字柿ノ木水流	散布地	縄文時代
1049	長畑 第1遺跡	大字三田井字長畑	散布地	縄文時代
1054	大野原遺跡	大字三田井字大野原	散布地	縄文時代
1055	古城遺跡	大字三田井字古城	散布地	縄文～弥生時代
1056	龜山城跡	大字三田井字古城	城跡	中世
1057	弥宜ノ地遺跡	大字岩戸字弥宜ノ地	散布地	縄文時代
1058	堂ノ元遺跡	大字三田井字陣内	散布地	縄文～弥生時代
1059	今村遺跡	大字三田井字今村	散布地	縄文～古墳時代
1060	松ノ原遺跡	大字三田井字松ノ原	散布地	縄文時代
1061	長迫遺跡	大字三田井字長迫	散布地	縄文時代
1062	尾谷遺跡	大字三田井字尾谷	散布地	縄文時代
1063	梅ノ木原遺跡	大字三田井字梅ノ木原	散布地	縄文時代
1064	尾久保 第1遺跡	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代
1065	尾久保 第2遺跡	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代
1066	桑水流遺跡	大字三田井字桑水流	散布地	弥生時代
1067	栃又 第1遺跡	大字三田井字栃又	散布地	縄文～弥生時代
1068	栃又 第2遺跡	大字三田井字栃又	散布地	縄文時代
4001		大字岩戸王ヶ村	散布地	
4002	原目遺跡	大字岩戸字原目	散布地	
4003	王ヶ村遺跡	大字岩戸字王ヶ村	散布地	
4004	向久保横穴墓	大字岩戸字向久保	横穴墓	古墳時代
4005	岩神上横穴墓	大字岩戸字岩神上	横穴墓	古墳時代
4006	馬場遺跡	大字岩戸字馬場	散布地	弥生時代
4007	中ノ園遺跡	大字岩戸字中ノ園	散布地	弥生時代
4008	立石横穴墓	大字岩戸字立石	横穴墓	古墳時代
4009	樞殿遺跡	大字岩戸字樞殿	散布地	弥生時代
4010	神殿遺跡	大字岩戸字神殿	散布地	弥生時代
4011	馬場崎遺跡	大字岩戸字馬場崎	散布地	弥生時代
4012	仲ノ谷横穴墓	大字岩戸字仲ノ谷	横穴墓	古墳時代

穴墓は、五ヶ瀬川の支流である河内川・田原川・上野川・下野川・神代川流域、岩戸川流域に分布している。横穴墓は、支室内に屍床を有し石枕を造り出す肥後型のAタイプと、方形プラン・ドーム形で屍床を有しないBタイプに分かれる。Aタイプは南平55—1号横穴墓の第ⅢBの須恵器、一本木横穴墓の鐘形杏葉より6世紀後半の時期が比定される。Aタイプは日向においては高千穂のみである。丸山石棺群では3基の箱式石棺が調査され、直弧文を施した鹿角製刀装具鉄剣が出土しており、5世紀に遡る可能性がある。生活遺構・円墳が未調査なので、当地域の古墳時代社会の具体像を描写するまでには至っていない。

当地域は既に指摘されているように、地形に根ざす閉鎖的な社会ではなく、各時代ごとに近隣地域との交流を行っている。また縄文時代後晩期においては土偶・石棒などの呪術的な道具を有するほどの繁栄期を迎えている。しかし、縄文時代における中期、弥生時代における前期、古墳時代における前・中期というように各時代に空白期を有しており、これが地域本来のあり方なのか、或いは研究上の一段階なのかは今後の課題である。

注

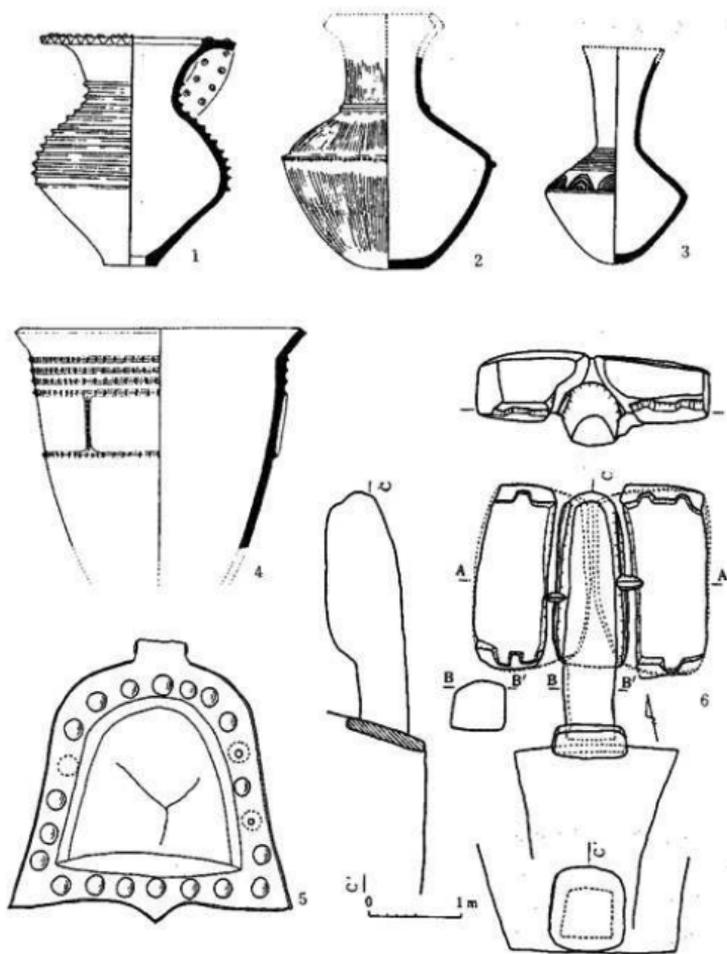
- (1) 高千穂町教育委員会『高千穂町遺跡詳細分布調査報告書(三田井・押方・向山地区)』1983
- (2) 鈴木重治「宮崎県見立出羽洞窟」『日本の洞窟遺跡』1970
- (3) 高千穂町教育委員会『セベツ遺跡』1984
- (4) 鈴木重治・賀川光夫「陣内遺跡」『日向遺跡総合調査報告』第二輯 1962
- (5) (1)に同じ。
- (6)・(7) (4)に同じ。
- (8) 乙益重隆「高千穂の先史文化」『高千穂・阿蘇』1960
- (9) 現在、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで整理が行われている。
- (10) 永友良典「宮崎県陣内遺跡について」『海と里と山の考古学』1983
- (11) (3)に同じ。
- (12) 沢 皇臣「宮崎県西臼杵郡高千穂町押方周辺の遺跡」『九州考古学』45 1972
- (13) 高千穂町教育委員会『海糸平遺跡』1977
- (14) 後藤守一「東京帝室博物館所蔵の弥生式土器」『考古学』第5巻第3号 1934
- (15) (8)に同じ。
- (16) 下條信行「九州における大陸系磨製石器の生成と展開」『史観』114 1977
- (17) 大野町教育委員会『大野塚台地の遺跡』Ⅱ 1977
- (18) 平部嶺南『日向地誌』1929
- (19) 高千穂町教育委員会『高千穂町古墳管理台帳』1980
- (20) 北郷泰道・田尻隆介「南平横穴群発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第14集 1969
- (21) 柳 宏吉「横穴古墳」『宮崎県文化財調査報告書』第3輯 1958
- (22) 石川恒太郎「西臼杵郡高千穂町奥崎の箱式石棺調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』第16集 1972
- 石川恒太郎・内藤芳篤「丸山石棺群発掘調査」『宮崎県文化財発掘調査報告書』第21集 1979
- (23) (8)・(13)に同じ。



1.尖頭器(セベツト遺跡) 2.押型文土器(馬谷遺跡) 3、6.黒色磨研土器(陣内遺跡)
4.石棒(陣内遺跡) 5.竪穴式住居(セベツト遺跡) 7.土偶(陣内遺跡)

1・5は計測写真、2・3・6は計測複製、4・7は計測複製より転写

第2図 高千穂町内の縄文時代遺物実測図(縮尺不同)



1. 壺形土器 (岩戸出土) 2. 壺形土器 (三田井出土) 3. 免田式土器 (柚木野出土)
 4. 工字突帯文甕 (高千穂高校遺跡) 5. 鐘形青葉 (一本木横穴墓) 6. 南平55-1号横穴墓
 1-4は「弥生土器集成・本編Ⅰ」、5は註(1)文献、6は註(2)文献より転載。

第3図 高千穂町内の弥生・古墳時代遺物実測図 (縮尺不同)

第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 調査区の設定と概要

梅ノ木原遺跡(1063)は、岩戸川に伸びる舌状丘陵と山地の転換点に位置し、以前から縄文土器や打製石斧・石鏃が出土していた周知の遺跡である(第4図)。

7月30日から8月3日まで試掘調査を行なった結果、A地区ではⅢ層(攪乱層、Ⅳ・Ⅴ層のブロック混り)、Ⅳ層(黒褐色土)から縄文後・晩期の土器、打製石斧、磨製石鏃が出土した。またB地区ではB-3グリッドの攪乱層から打製石斧3本出土した。B-4グリッドでは住居跡の一部を確認した。試掘の結果、水田耕作と斜面のために包含層の状態はあまり良好ではなかったが、遺物量が多く、部分的に包含層が残存する地域もあるため本調査を行うこととした。

9月3日から28日までの本調査によって、400㎡の発掘調査が行われB地区から弥生後期の方形プランの竈穴住居1軒検出された。縄文後・晩期の土器に伴って打製石斧・石鏃・石鏃が出土し、特に小玉が出土したことは注目される。A地区では遺構は検出されなかったが、多数の縄文後期・晩期の土器が出土した(第5図)。

2. 包含層の状態(第6図)

当遺跡では、アカホヤ層はB地区の一部で残存しているだけであった。

A地区の基本層序は、第Ⅰ層は茶褐色土層(耕作土)、第Ⅱ層は赤褐色土層(鉄分を多く含み、硬質である)、第Ⅲ層は褐色土層(第Ⅳ・Ⅴ層のブロック混りの攪乱層)、第Ⅳ層は黒褐色土層、第Ⅴ層は褐色土層(硬質)である。第Ⅱ層は最近まで耕作されていた水田の床面である。

B地区の基本層序は、第Ⅰ層が青灰色土層(Ⅰ)、第Ⅱ層が赤褐色土層(Ⅰ)(鉄分を多く含み、硬質である)、第Ⅲ層が赤褐色土層(Ⅱ)(鉄分を多く含み、硬質である)、第Ⅳ層が褐色土層(Ⅱ)、第Ⅴ層が茶褐色土層(小砂礫混り)、第Ⅵ層が暗褐色土層(小砂礫混り)、第Ⅶ層が茶褐色土層(小砂礫混り)、第Ⅷ層が暗茶褐色土層、第Ⅸ層が黄褐色土層(アカホヤ層)である。縄文土器・石器は第Ⅷ層から出土している。

3. 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、斜面と水田耕作のために残存していなかった。B地区の舌状丘陵が伸びる地点から多数の縄文土器や打製石斧・剝片などが出土したが、多くは二次的な埋土中から出土した。

(1) 縄文土器(第7~12図)

縄文土器はB-6・7に集中していた。口縁部の特徴により形態分類を行い、土器観察表(第表)を作成した。

深鉢

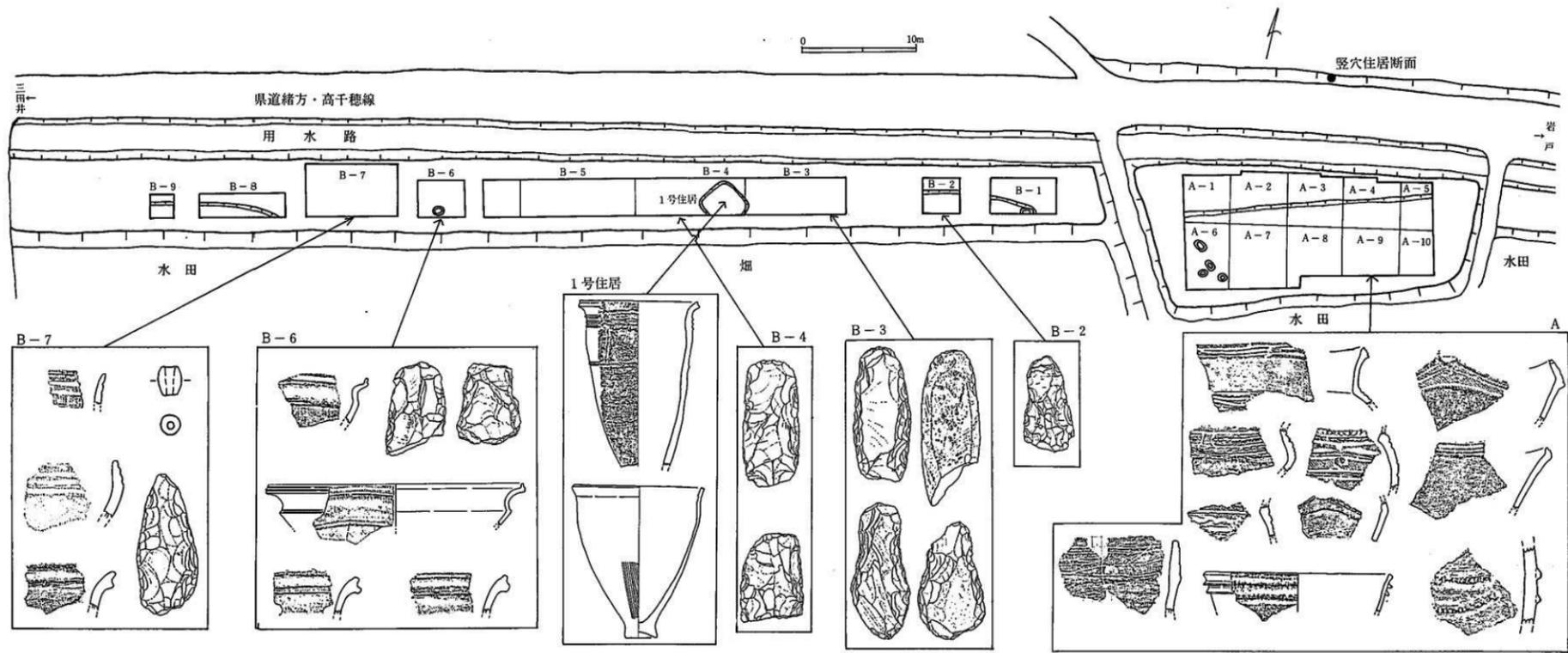
A類(1~70)

口縁部はくの字状を呈し、頸部はわずかに反転しながらしまり、胴部との境で屈曲し球形の胴部となる。口縁部は磨消縄文・2~3本の沈線・刺突文で構成される。頸部は無文で、頸部と胴部の境に連続刺突文を入れる。胴部上位の文様は4~5本の沈線と磨消縄文によって構成され、下位は無文で



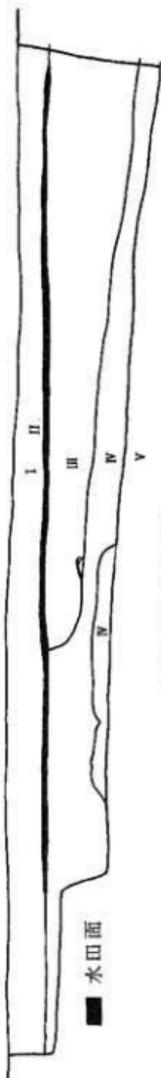
第4図 梅ノ木原遺跡地形図(縮尺1/5000)





第5図 遺構分布図 (縮尺1/300)

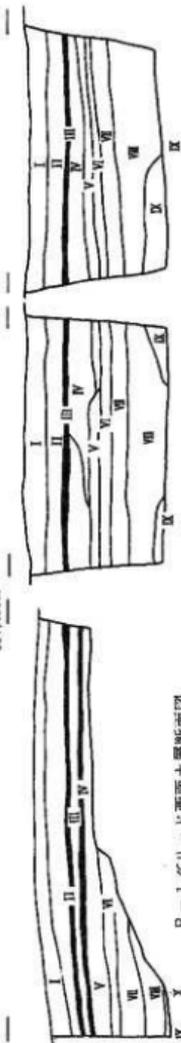




A地区土層断面図

- I層 茶褐色土 (耕作土)
- II層 赤褐色土 (硬質・水分)
- III層 暗褐色土 (W・V層のフロック状)
- IV層 黒褐色土
- V層 黒褐色土 (硬質)

354.186m



B-1 グリッド西面土層断面図

- I層 青灰色土 (鉄分若干混り)
- II層 赤褐色土 (鉄分混り・硬質)
- III層 青灰色土
- IV層 赤褐色土 (鉄分混り・硬質)
- V層 茶褐色土
- VI層 暗褐色土 (小石・硬混り・砂質)
- VII層 赤褐色土 (V層と同質)
- VIII層 褐色土
- IX層 褐色土 (粘質)
- X層 褐色土

B-4 グリッド南面・西面土層断面図

- I層 青灰色土
- II層 赤褐色土 (鉄分混り・硬質)
- III層 赤褐色土 (鉄分混り・硬質)
- IV層 褐色土
- V層 茶褐色土 (小砂混り)
- VI層 暗褐色土 (小砂混り)
- VII層 赤褐色土 (小砂混り)
- VIII層 褐色土 (小砂混り・粘質)
- IX層 赤褐色土 (アケホヤ)

2 m

第6図 A・B地区土層断面図 (縮尺1/50)

ある。施文部以外は丁寧な横方向のヘラ磨キを施した精製土器である。水平口縁の a 類と波状口縁の b 類に分かれる。波状口縁の頂部には V 字形・U 字形の刻目を入れる。従来、西平式土器・磨消縄文系三万田式土器と呼ばれた一群である。

B 類 (71)

口縁部と胴部上位の文様が 2～3 本の沈線・羽状文で構成されている。従来、羽状文系三万田式土器と呼ばれた一群である。

C 類 (72～79)

口縁部内面の一条の沈線以外は無文で、横方向のヘラ磨キを施す。水平口縁の a 類と波状口縁の b 類に分かれる。所謂三万田式土器の一群である。

D 類 (80～89)

口縁部はやや内傾し、頸部はゆるく内湾し胴部に甘い稜を有する。口縁部外面に 2～3 条の凹線を施し、胴部最大径の上位に一条の凹線を施す。横方向のヘラ磨キを施す。所謂御領式土器の一群である。

E 類 (90～91)

口縁部が外反し、無文で横方向のヘラ磨キを施す。

F 類 (92～96)

口縁部に 3 本以上の沈線を施す。横方向のヘラナデを施す。

G 類 (97～114)

内傾や外傾する口縁部の外面に一条の刻み目のない突帯文土器である。

G-1 類 (97～101)

断面方形の高い突帯が斜目上方に向く。

G-2 類 (102～104)

高い台形状突帯である。

G-3 類 (105～107)

幅広い三角形突帯である。

G-4 類 (108～114)

細身の三角形突帯である。

浅鉢

A 類 (116～117)

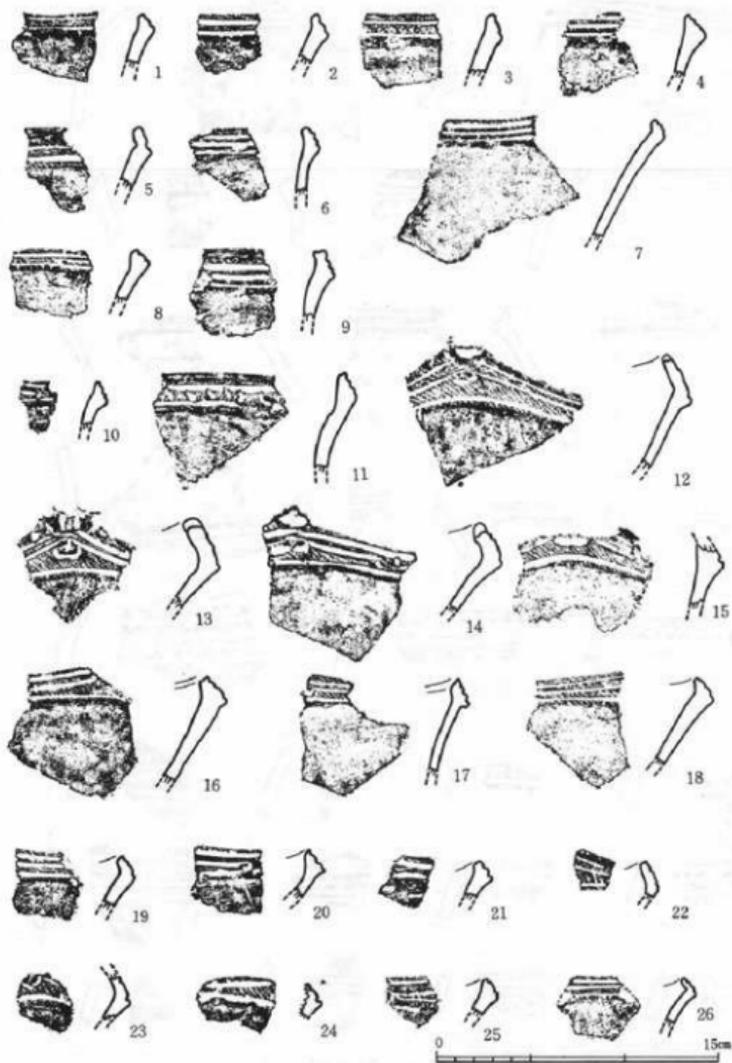
平縁の水平口縁部が緩く内傾し、そのまま底部に至る。口縁部外面に 2～3 条の凹線を施し、横方向のヘラ磨キを施す。

B 類 (118)

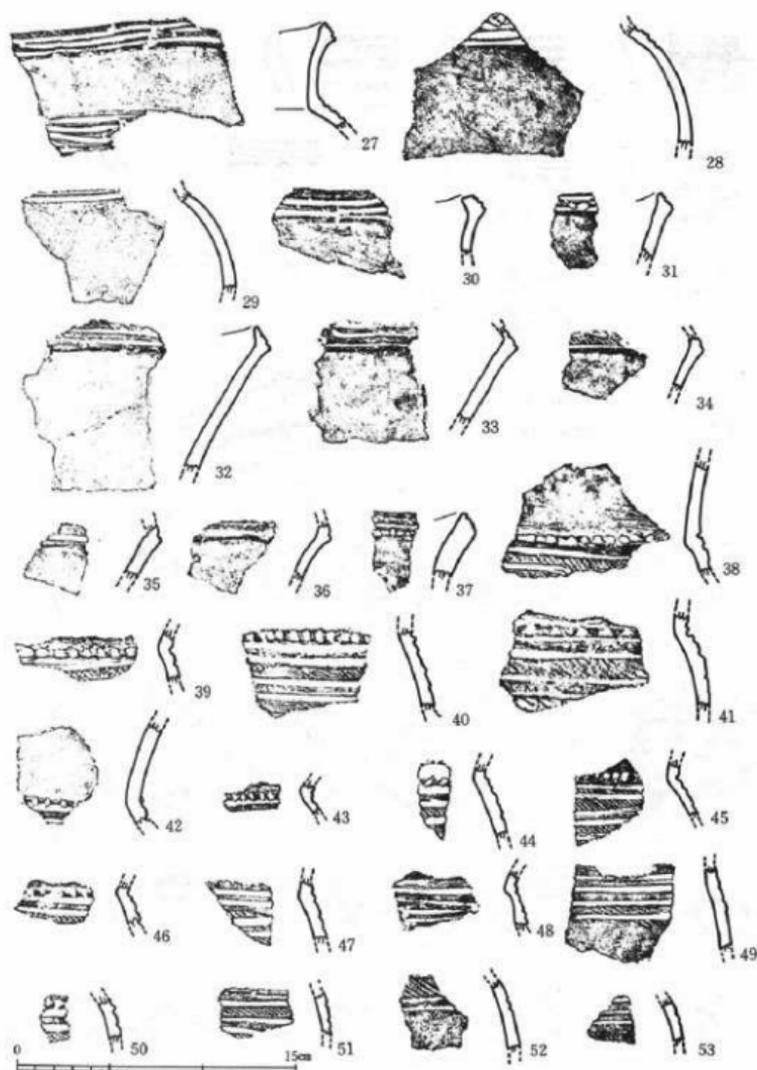
平縁の口縁部の文様は 2～3 本の沈線と羽状文で構成されている。

C 類 (119～121)

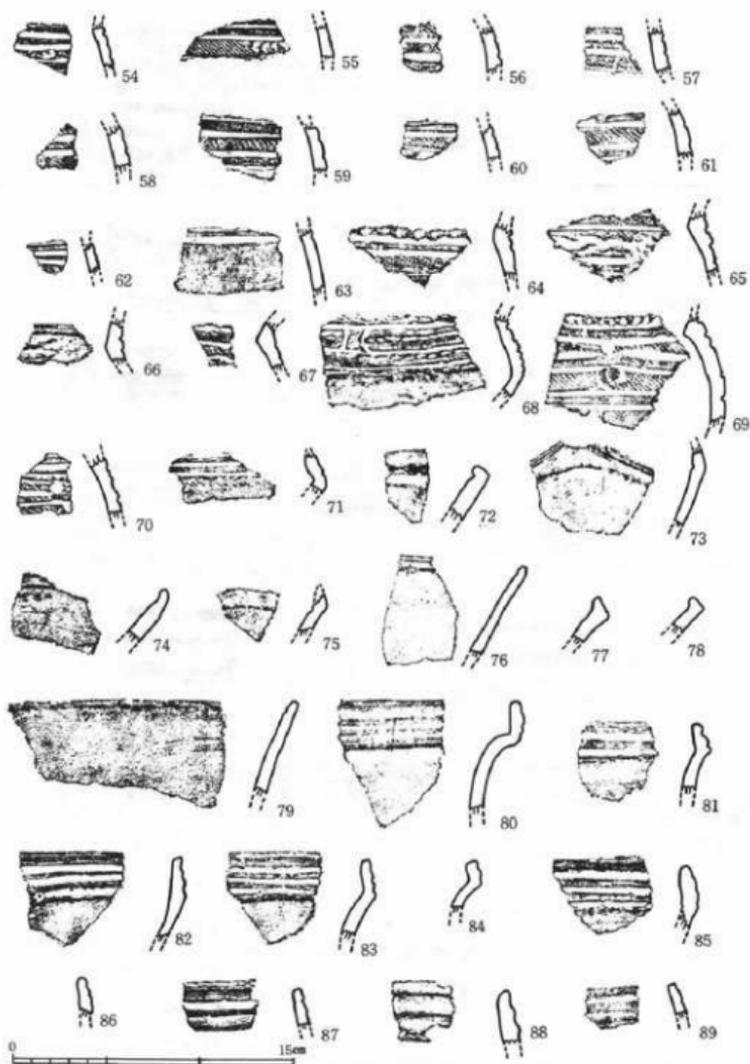
平縁の口縁部が直立またはわずかに外反し、四方が山形に隆起する。口縁部の外面に 1～2 条の凹線を施し、横方向のヘラ磨キを施す。



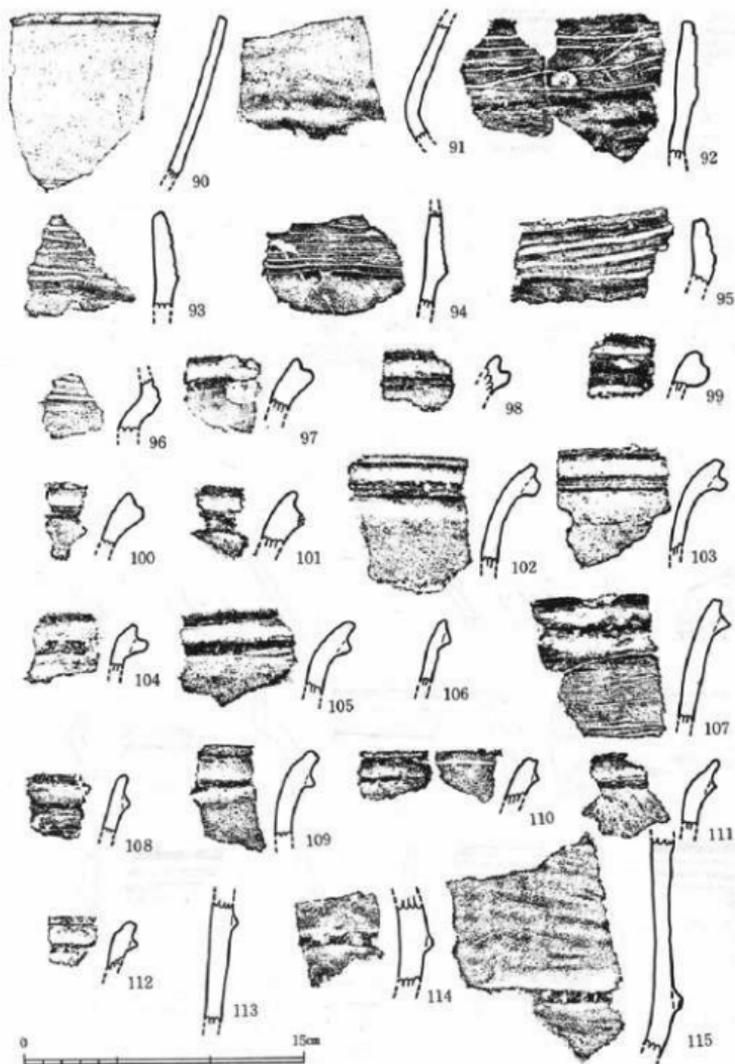
第7図 縄文土器実測図(I) (縮尺 $\frac{1}{2}$)



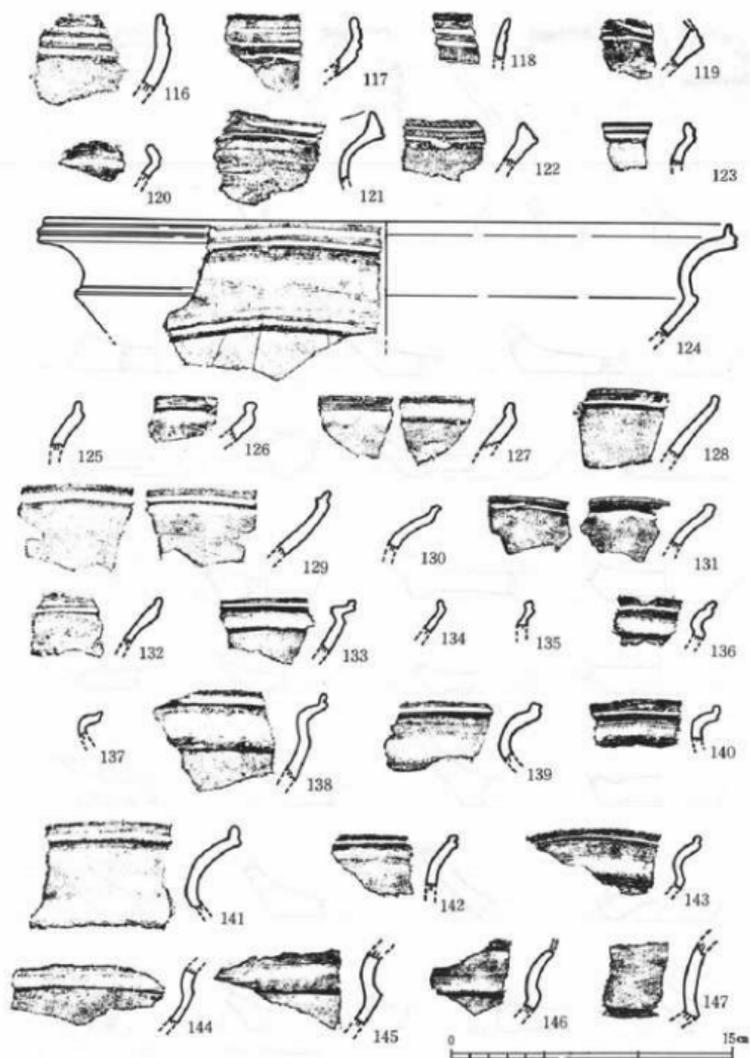
第8图 縄文土器実測图(II) (縮尺 $\frac{1}{3}$)



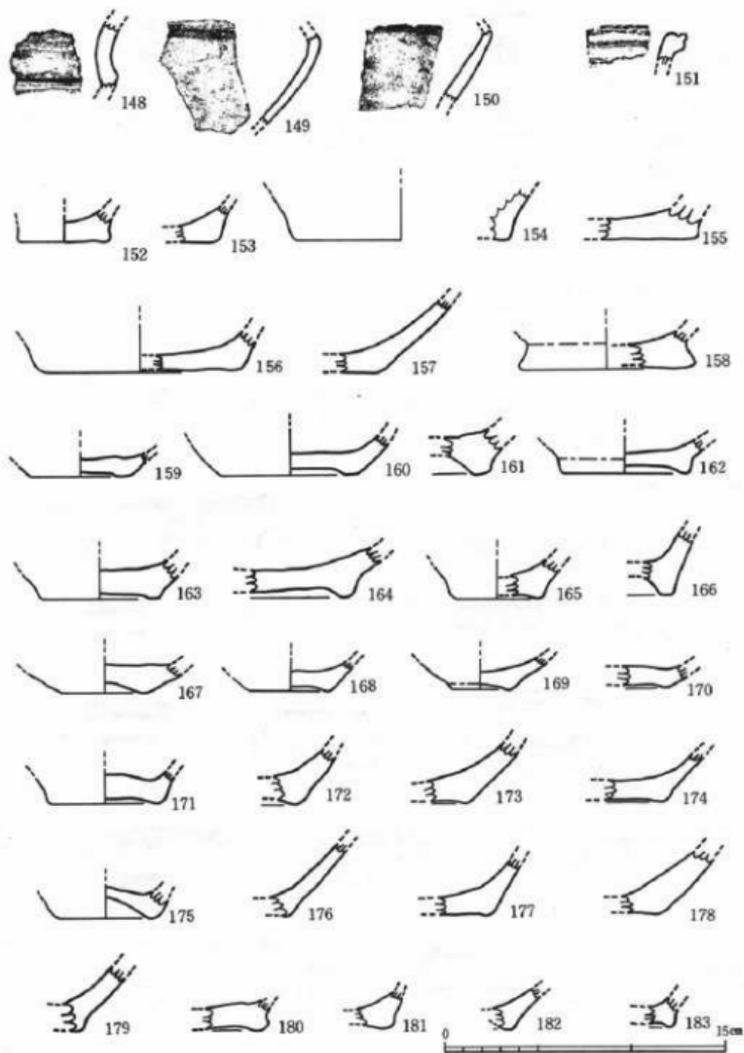
第 9 図 縄文土器実測図(Ⅲ) (縮尺 $\frac{1}{2}$)



第10図 縄文土器実測図(Ⅳ) (縮尺 $\frac{1}{3}$)



第11図 縄文土器実測図(V) (縮尺 $\frac{1}{2}$)



第12図 縄文土器実測図(VI)(縮尺 $\frac{1}{3}$)

第2表 梅ノ木原遺跡出土銅文土器觀察表

図面 番号	グリー ン D 名	器形		器面		調整		文		壁		胎土	外 色	周 面		焼成	備考	
		器形	器部	外	内	面	面	内	面	内	面							
1	A-8	深鉢A	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	2条沈線	2条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
2	A-5	深鉢A	口縁部	ナデ	ヘラナデ	2条沈線	2条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
3	A-9	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
4	A-5	深鉢A	口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ	3条沈線	3条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
5	A-4	深鉢A	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	2条沈線 磨消面文	2条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
6	A-8	深鉢A	口縁部	ナデ	ヘラ磨キ	3条沈線	3条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
7	A-1	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	3条沈線	3条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
8	A-7	深鉢A	口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ	2条沈線	2条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
9	A-5	深鉢A	口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ	3条沈線	3条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
10	A	深鉢A	口頸部	ナデ	ナデ	2条沈線 削突	2条沈線 削突	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
11	A-7	深鉢A	口頸部	ナデ	ナデ	2条沈線 削突	2条沈線 削突	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
12	A-4	深鉢A	口縁部	ヘラナデ	ナデ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
13	A-2	深鉢A	口縁部	ナデ、磨消面 文、ヘラ磨キ	ナデ、磨消面 文、ヘラ磨キ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
14	A-10	深鉢A	口頸部	ヘラナデ	ヘラナデ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
15	A-5	深鉢A	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	3条沈線	3条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
16	A-7	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
17	A-8	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	3条沈線 削突	3条沈線 削突	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
18	A-3	深鉢A	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
19	A-9	深鉢A	口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ	3条沈線	3条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
20	A	深鉢A	口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ	2条沈線	2条沈線	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
21	A-10	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
22	A-8	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	3条沈線 磨消面文	3条沈線 磨消面文	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土

23	A-3	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線 磨消縄文	1mm大砂粒多 く含む。	にぶい、黄褐色 (10YR 7/3)	左に同じ	良好	波状口縁
24	A-7	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線 磨消縄文	1mm大砂粒多 く含む。	にぶい、黄褐色 (10YR 7/3)	左に同じ	良好	波状口縁
25	A	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線	0.5mm大砂粒 多く含む。	にぶい、黄褐色 (7.5YR 5/3)	にぶい、黄褐色 (7.5YR 7/4)	良好	波状口縁
26	A-3	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線	1~2mm大砂 粒若干含む。	灰褐色 (10YR 7/3)	左に同じ	良好	波状口縁
27	A-5	深鉢A	口縁部 ~胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線	1~2mm大砂 粒多く含む。	灰褐色 (7.5YR 4/2)	左に同じ	良好	波状口縁
28	A-4	深鉢A	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線 刺突	1mm大砂粒多 く含む。	黒褐色 (7.5YR 4/3)	黒褐色 (10YR 3/1)	良好	スス付着 波状口縁
29	A-5	深鉢A	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線	1mm大砂粒多 く含む。	にぶい、黄褐色 (7.5YR 6/4)	黒褐色 (10YR 3/1)	良好	スス付着 波状口縁
30	A-2	深鉢A	口頸部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線	1mm大砂粒若 く含む。	にぶい、黄褐色 (7.5YR 5/4)	黒褐色 (7.5YR 2/1)	良好	波状口縁
31	A-8	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線 刺突	1~3mm大砂 粒多く含む。	にぶい、黄褐色 (10YR 4/3)	灰褐色 (10YR 3/4)	良好	波状口縁
32	A-9	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線	粒多く含む。	にぶい、黄褐色 (10YR 4/2)	にぶい、黄褐色 (7.5YR 5/3)	良好	波状口縁
33	A-8	深鉢A	口頸部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線	1mm大砂粒多 く含む。	にぶい、黄褐色 (10YR 4/3)	にぶい、黄褐色 (7.5YR 5/4)	良好	波状口縁
34	A-9	深鉢A	口頸部	ナデ	ナデ	ナデ	1条沈線 磨消縄文	1mm大砂粒多 く含む。	灰黄褐色 (10YR 4/2)	にぶい、黄褐色 (7.5YR 5/3)	良好	波状口縁
35	A-4	深鉢A	口頸部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線 磨消縄文	1mm大砂粒多 く含む。	灰黄褐色 (10YR 4/2)	にぶい、黄褐色 (7.5YR 5/3)	良好	波状口縁
36	A-8	深鉢A	口頸部	ナデ	ナデ	ナデ	1条沈線	1mm大砂粒多 く含む。	洗黄土 (7.5YR 4/1)	左に同じ	良好	波状口縁
37	A-3	深鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線 磨消縄文	1mm大砂粒多 く含む。	洗黄土 (2.5Y 7/3)	にぶい、黄褐色 (10YR 7/3)	良好	波状口縁
38	A-9	深鉢A	胴部 ~胴部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線、刺 突、磨消縄文	1~3mm大砂 粒若干含む。	洗黄土 (10YR 7/3)	左に同じ	良好	波状口縁
39	A-9	深鉢A	胴部 ~胴部	ナデ	ナデ	ナデ	2条沈線、刺 突、磨消縄文	粒多く含む。	洗黄土 (10YR 3/3)	にぶい、黄褐色 (10YR 6/3)	良好	波状口縁
40	A-2	深鉢A	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線、刺 突、磨消縄文	0.5~3mm大砂 粒多く含む。	洗黄土 (10YR 4/1)	にぶい、黄褐色 (7.5YR 6/3)	良好	波状口縁
41	A-8	深鉢A	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線、刺 突、磨消縄文	1mm大砂粒多 く含む。	洗黄土 (7.5YR 5/4)	灰褐色 (10YR 4/2)	良好	波状口縁
42	A-3	深鉢A	胴部 ~胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線、刺 突、磨消縄文	1mm大砂粒多 く含む。	洗黄土 (10YR 7/3)	にぶい、黄褐色 (10YR 6/4)	良好	スス付着
43	A-8	深鉢A	胴部 ~胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線、刺 突、磨消縄文	粒多く含む。	洗黄土 (7.5YR 6/4)	左に同じ	良好	波状口縁
44	A	深鉢A	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線	0.5mm大砂粒 多く含む。	洗黄土 (7.5YR 5/4)	にぶい、黄褐色 (5YR 6/4)	良好	波状口縁
45	A-8	深鉢A	胴部 ~胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線、刺 突、磨消縄文	0.5~1mm大砂 粒多く含む。	洗黄土 (10YR 7/4)	洗黄土 (10YR 8/4)	良好	波状口縁
46	A-8	深鉢A	胴部 ~胴部	ナデ	ナデ	ナデ	3条沈線、刺 突、磨消縄文	0.5mm大砂粒 多く含む。	洗黄土 (10YR 5/2)	洗黄土 (10YR 6/3)	良好	波状口縁

陸頭 番号	グリア ド名	器形	器部	器面		器面		器面		土	色面		内面	備考
				外	内	外	内	外	内					
47	A-8	深鉢A	頸部 ~胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	1mm大砂粒多 く含む。	灰褐色 (7.5Y R 4/2)	灰褐色 (7.5Y R 4/2)	に、赤い、黄 褐色	に、赤い、黄 褐色	7/4)	良好
48	A-8	深鉢A	頸部 ~胴部	ヘラナデ	ヘラナデ	磨消縄文	ナデ	0.5mm大砂粒 多く含む。	に、赤い、黄 褐色	に、赤い、黄 褐色	に、赤い、黄 褐色	左に同じ	良好	
49	A-7	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラ磨ナ	磨消縄文	ヘラ磨ナ	0.5mm大砂粒 多く含む。	黒褐色 (7.5Y R 3/4)	黒褐色 (7.5Y R 3/4)	黒褐色 (7.5Y R 3/4)	黒褐色 (7.5Y R 3/2)	良好	
50	A-9	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5mm大砂粒 多く含む。	灰褐色、前 に、赤い、黄 褐色	灰褐色、前 に、赤い、黄 褐色	灰褐色、前 に、赤い、黄 褐色	灰褐色、前 に、赤い、黄 褐色	良好	
51	A-3	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	1mm大砂粒多 く含む。	黒褐色 (7.5Y R 4/1)	黒褐色 (7.5Y R 4/1)	黒褐色 (7.5Y R 4/1)	黒褐色 (7.5Y R 6/3)	良好	
52	A-1	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラ磨ナ	磨消縄文	ヘラ磨ナ	0.5~1.5mm大 砂粒含む。	黒褐色 (7.5Y R 5/2)	黒褐色 (7.5Y R 5/2)	黒褐色 (7.5Y R 5/2)	黒褐色 (7.5Y R 6/4)	良好	
53	A-9	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5mm大砂粒 多く含む。	黒褐色 (7.5Y R 6/3)	黒褐色 (7.5Y R 6/3)	黒褐色 (7.5Y R 6/3)	黒褐色 (7.5Y R 5/2)	良好	
54	A-10	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラナデ	磨消縄文	ヘラナデ	1mm大砂粒多 く含む。	黒褐色 (7.5Y R 3/1)	黒褐色 (7.5Y R 3/1)	黒褐色 (7.5Y R 3/1)	黒褐色 (7.5Y R 5/3)	良好	
55	A-8	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラ磨ナ	磨消縄文	ヘラ磨ナ	0.5mm大砂粒 含む。	黒褐色 (7.5Y R 8/4)	黒褐色 (7.5Y R 8/4)	黒褐色 (7.5Y R 8/4)	黒褐色 (7.5Y R 3/1)	良好	
56	A-3	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5~1mm大砂 粒含む。	黒褐色 (7.5Y R 4/1)	黒褐色 (7.5Y R 4/1)	黒褐色 (7.5Y R 4/1)	黒褐色 (7.5Y R 6/4)	良好	
57	A-8	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5mm大砂粒 含む。	赤褐色 (7.5Y R 8/4)	赤褐色 (7.5Y R 8/4)	赤褐色 (7.5Y R 8/4)	赤褐色 (7.5Y R 5/4)	良好	
58	A	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5mm大砂粒 若干含む。	赤褐色 (7.5Y R 5/3)	赤褐色 (7.5Y R 5/3)	赤褐色 (7.5Y R 5/3)	赤褐色 (7.5Y R 5/4)	良好	
59	A	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5~1mm大砂 粒含む。	赤褐色 (7.5Y R 4/1)	赤褐色 (7.5Y R 4/1)	赤褐色 (7.5Y R 4/1)	赤褐色 (7.5Y R 6/4)	良好	
60	A-9	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5~1mm大砂 粒多く含む。	赤褐色 (5 Y R 5/4)	赤褐色 (5 Y R 5/4)	赤褐色 (5 Y R 5/4)	赤褐色 (7.5Y R 6/4)	良好	
61	A-6	深鉢A	胴部	磨消縄文	ナデ	磨消縄文	ナデ	1mm大砂粒含 む。	灰褐色 (7.5Y R 6/2)	灰褐色 (7.5Y R 6/2)	灰褐色 (7.5Y R 6/2)	灰褐色 (7.5Y R 8/2)	良好	
62	A-8	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラ磨ナ	磨消縄文	ヘラ磨ナ	0.5~1.5mm大 砂粒含む。	赤褐色 (7.5Y R 6/3)	赤褐色 (7.5Y R 6/3)	赤褐色 (7.5Y R 6/3)	赤褐色 (7.5Y R 6/2)	良好	
63	A-10	深鉢A	胴部	ヘラナデ	ナデ	磨消縄文	ナデ	0.5~1mm大砂 粒多く含む。	赤褐色 (7.5Y R 5/2)	赤褐色 (7.5Y R 5/2)	赤褐色 (7.5Y R 5/2)	赤褐色 (7.5Y R 7/3)	良好	
64	A-8	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラナデ	磨消縄文	ヘラナデ	1~2mm大砂 粒若干含む。	赤褐色 (7.5Y R 4/2)	赤褐色 (7.5Y R 4/2)	赤褐色 (7.5Y R 4/2)	赤褐色 (7.5Y R 7/3)	良好	
65	A-8	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラナデ	磨消縄文	ヘラナデ	1~2mm大砂 粒多く含む。	赤褐色 (7.5Y R 4/2)	赤褐色 (7.5Y R 4/2)	赤褐色 (7.5Y R 4/2)	赤褐色 (7.5Y R 5/4)	良好	
66	A-9	深鉢A	頸部 ~胴部	ナデ	ナデ	磨消縄文	ナデ	1mm大砂粒多 く含む。	赤褐色 (7.5Y R 5/3)	赤褐色 (7.5Y R 5/3)	赤褐色 (7.5Y R 5/3)	赤褐色 (7.5Y R 6/4)	良好	
67	A	深鉢A	頸部 ~胴部	磨消縄文	ヘラ磨ナ	磨消縄文	ヘラ磨ナ	0.5~1mm大砂 粒若干含む。	黒褐色 (7.5Y R 3/1)	黒褐色 (7.5Y R 3/1)	黒褐色 (7.5Y R 3/1)	黒褐色 (7.5Y R 4/3)	良好	
68	A-6	深鉢A	胴部	ヘラ磨ナ	ヘラ磨ナ	磨消縄文	ヘラ磨ナ	1mm大砂粒若 く含む。	赤褐色 (7.5Y R 6/4)	赤褐色 (7.5Y R 6/4)	赤褐色 (7.5Y R 6/4)	赤褐色 (7.5Y R 5/6)	良好	
69	A-8	深鉢A	胴部	磨消縄文	ヘラナデ	磨消縄文	ヘラナデ	1mm大砂粒多 く含む。	赤褐色 (2.5Y 7/2)	赤褐色 (2.5Y 7/2)	赤褐色 (2.5Y 7/2)	赤褐色 (2.5Y 7/2)	良好	

70	A-7	深鉢A	胴部	磨消織文	ナデ		3条沈線、則突、磨消織文		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 6/4) (10YR 4/2)	良好
71	B-7	深鉢B	口縁部	横ナデ	ナデ		2条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 6/4) (10YR 4/2)	良好
72	A-9	深鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		1条沈線		1mm 大砂粒 多く含む。	明製 (7.5YR 5/3)	良好
73	A-8	深鉢C	口縁部	ヘラナデ	ナデ		1条沈線		1~2mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (10YR 4/2) (10YR 6/4)	良好
74	A-8	深鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ				0.5mm 大砂粒 多く含む。	黒濁 (10YR 3/1) (7.5YR 5/3)	良好
75	A-9	深鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ				0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 5/4)	良好
76	B	深鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ				0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 6/3)	良好
77	A-10	深鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		1条沈線		1~3mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 6/3)	良好
78	B-7	深鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ				0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 5/3)	良好
79	B-8	深鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		1条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 6/3)	良好
80	B-7	深鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		2条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 6/3)	良好
81	B-6	深鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		2条沈線		0.3~0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 6/3)	良好
82	B-6	深鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		3条沈線		0.5~1mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 4/2)	良好
83	B-7	深鉢D	口縁部	ヘラナデ	ナデ		3条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 6/4)	良好
84	B-7	深鉢D	口縁部	ヘラナデ	ナデ		2条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 6/4)	良好
85	B-7	深鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		3条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/3) (7.5YR 7/2)	良好
86	B-7	深鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		3条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 3/2) (5YR 4/3)	良好
87	B-7	深鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ナデ		3条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (2.5Y 7/3) (10YR 6/3)	良好
88	B-6	深鉢D	口縁部	横ナデ	ヘラナデ		1条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (10YR 7/4) (10YR 5/3)	良好
89	B-6	深鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ナデ		2条沈線		0.5~2mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (10YR 8/3) (10YR 4/1)	良好
90	B-7	深鉢E	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		2条沈線		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (2.5Y 4/2) (2.5Y 4/1)	良好
91	B	深鉢E	頸部	ヘラ磨キ	ナデ		4条沈線		0.5~1mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (10YR 7/2) (10YR 8/3)	良好
92	A	深鉢F	口縁部	ヘラナデ	ナデ		4条沈線		1~3mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 3/1) (10YR 6/3)	良好
93	B-7	深鉢F	口縁部	ナデ	ナデ		5条沈線		1~3mm 大砂粒 多く含む。	灰黄湯 (7.5YR 5/6) (10YR 5/4)	良好
										灰黄湯 (5YR 5/3) (5YR 6/4)	良好

図面 番号	グリ 下名	器 形	器 部	外 面	内 面	文 面	様 内面	土 胎	外 色	内 面	調 面	焼 成	備 考
94	B-7	深鉢F	口縁部	ナデ	ナデ	7条沈線		1mm大砂粒多 く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 4/4)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/4)		良好	
95	B-6	深鉢F	口縁部	横ナデ	ナデ	3条沈線		0.5~1mm大砂 粒多く含む。	黒	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 4/3)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 4/3)	良好	
96	B-7	深鉢F	口縁部	ナデ	ナデ	2条沈線		0.5~2mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/3)		良好	
97	B-6	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	2条沈線		0.5~1mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/4)		良好	
98	B-6	深鉢G	口縁部	横ナデ	横ナデ	1条突帯		0.5~1mm大砂 粒多く含む。	黒	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 7/6)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 7/4)	良好	
99	B-6	深鉢G	口縁部	横ナデ	横ナデ	1条突帯		0.5~2mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 7/6)		良好	
100	B-6	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	1条突帯	1条沈線	0.5~1mm大砂 粒多く含む。	黒	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 6/6)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 7/6)	良好	
101	B-6	深鉢G	口縁部	横ナデ	横ナデ	1条突帯		1~4mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 7/4)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 6/4)		良好	
102	B-7	深鉢G	口縁部	ナデ	ヘラ磨キ	1条突帯		0.5~1mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/3)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/3)	左に同じ	良好	
103	B-6	深鉢G	口縁部	横ナデ	横ナデ	1条突帯		0.5~1mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/3)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/4)		良好	
104	B-6	深鉢G	口縁部	横ナデ	横ナデ	1条突帯		0.5~1.5mm大 砂粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 7/4)		良好	
105	A-8	深鉢G	口縁部	ナデ	ヘラナデ	1条突帯		1mm大砂粒多 く含む。	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 5/4)	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 4/3)		良好	
106	B-7	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	1条突帯		0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 5/3)		良好	
107	弥瓦/地	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	1条突帯		1mm大砂粒多 く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/4)	明赤褐色 (5.Y.R. 5/6)		良好	
108	A-8	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	1条突帯		0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい赤褐色 (10.Y.R. 6/3)	にぶい赤褐色 (10.Y.R. 6/3)	左に同じ	良好	スス付著
109	B-7	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	1条突帯		0.5~1mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 7/4)	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 7/3)		良好	
110	B-6	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	1条突帯		0.5~1mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 6/3)	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 6/3)	左に同じ	良好	
111	B-7	深鉢G	口縁部	ナデ	ナデ	1条突帯		0.5~2mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/3)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/4)		良好	
112	B-7	深鉢G	口縁部	横ナデ	ナデ	1条突帯		0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (5.Y.R. 5/4)		良好	
113	弥瓦/地	深鉢G	胴部	ナデ	ナデ	1条突帯		2mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (10.Y.R. 5/3)	にぶい赤褐色 (10.Y.R. 5/3)	左に同じ	良好	
114	B-6	深鉢G	胴部	ナデ	ヘラナデ	1条突帯		0.5~2mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (7.5.Y.R. 6/4)	左に同じ	良好	
115	C	深鉢G	胴部	ナデ	ナデ	1条突帯		0.5~1.5mm大 砂粒多く含む。	黒	黒褐色 (7.5.Y.R. 7/6)		良好	
116	B-7	浅鉢A	口縁部	ナデ	ナデ	3条沈線		0.5~1mm大砂 粒五十個含む。	にぶい赤褐色 (10.Y.R. 6/4)	にぶい赤褐色 (10.Y.R. 6/4)	左に同じ	良好	

117	B-7	洗鉢A	口薬部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	3条沈線 2条沈線 羽状文	0.5mm 大砂粒 若干含む。	にぶい、橙 (5 Y R 6/4)	左に同じ	良好	
118	B-7	洗鉢B	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	2条沈線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	黄灰 (10 Y R 5/1)	黄灰 (10 Y R 6/1)	良好	波状口縁
119	A	洗鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	2条沈線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい、橙 (5 Y R 7/4)	にぶい、橙 (5 Y R 6/3)	良好	波状口縁
120	B-6	洗鉢C	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 多く含む。	黄灰 (2.5 Y 5/1)	左に同じ	良好	波状口縁
121	B-3	洗鉢C	口縁部	ヘラナゲ	ヘラナゲ	ヘラナゲ	2条沈線	0.5-3mm 大砂粒 多く含む。	灰濁 (5 Y R 5/2)	にぶい、橙 (5 Y R 6/3)	良好	波状口縁
122	B-6	洗鉢D	口縁部	ナゲ	ヘラナゲ 磨削真文	ナゲ	2条沈線	0.3-0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい、黄緑 (10 Y R 6/3)	黄緑 (10 Y R 4/1)	良好	
123	B-7	洗鉢D	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	2条沈線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい、黄緑 (10 Y R 7/4)	黄緑 (10 Y R 4/1)	良好	
124	B-6	洗鉢E	口縁部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	3条凹線	0.5mm 大砂粒 若干含む。	黄灰濁 (10 Y R 5/2)	黄 (10 Y R 7/4)	良好	
125	B-7	洗鉢F	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラナゲ	ヘラ磨キ	1条凹線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	洗黄濁 (10 Y R 8/4)	にぶい、橙 (7.5 Y R 7/4)	良好	
126	B-7	洗鉢F	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄濁 (10 Y R 5/2)	左に同じ	良好	
127	B-6	洗鉢F	口縁部	ナゲ	ナゲ	ナゲ		0.2-0.3mm 大砂粒 多く含む。	にぶい、黄橙 (10 Y R 6/3)	灰黄濁 (10 Y R 5/2)	良好	
128	B-6	洗鉢F	口縁部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 若干含む。	黄灰 (2.5 Y 4/1)	灰黄 (2.5 Y 6/2)	良好	
129	B-6	洗鉢F	口縁部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい、黄橙 (10 Y R 7/3)	灰黄濁 (10 Y R 6/2)	良好	
130	B-7	洗鉢F	口薬部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 多く含む。	黒 (7.5 Y R 7/3)	にぶい、橙 (7.5 Y R 7/3)	良好	
131	B-6	洗鉢F	口薬部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.2-0.3mm 大砂粒 多く含む。	にぶい、黄緑 (10 Y R 7/3)	灰黄濁 (10 Y R 6/2)	良好	
132	B-6	洗鉢F	口薬部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	1条凹線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	黒 (2.5 Y 4/1)	黄緑 (2.5 Y 4/1)	良好	
133	B-7	洗鉢F	口縁部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 多く含む。	にぶい、黄橙 (10 Y R 7/3)	にぶい、黄濁 (10 Y R 7/2)	良好	
134	B-7	洗鉢F	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 若干含む。	洗黄 (2.5 Y 7/3)	にぶい、黄濁 (10 Y R 7/3)	良好	
135	B-7	洗鉢F	口薬部	ナゲ	ナゲ	ナゲ		0.5mm 大砂粒 若干含む。	にぶい、黄濁 (10 Y R 7/3)	左に同じ	良好	
136	B-7	洗鉢F	口薬部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	1条沈線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	黒 (10 Y R 7/3)	黒	良好	
137	B-7	洗鉢F	口縁部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ		0.5mm 大砂粒 若干含む。	にぶい、黄濁 (10 Y R 7/3)	左に同じ	良好	
138	B-6	洗鉢F	口縁部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	1条凹線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	灰黄濁 (10 Y R 6/2)	左に同じ	良好	
139	B-7	洗鉢F	口薬部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	1条凹線	0.5mm 大砂粒 多く含む。	洗灰 (10 Y R 4/1)	灰黄濁 (10 Y R 5/2)	良好	
140	B-7	洗鉢F	口薬部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ	1条凹線	0.5mm 大砂粒 若干含む。	にぶい、黄濁 (10 Y R 7/3)	洗濁 (7.5 Y R 5/2)	良好	

図面 番号	グリッ ド名	器 形	器 部	外 面	器 面	調 面	整 面	文 面	儀 面	胎 土	外 面	色 面	内 面	調 面	焼 成	備 考
141	B-7	洗鉢F	口架部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ			1条凹線		0.5mm大砂粒 多く含む。	黄灰 (2.5Y 6/1)	黄灰 (7.5Y R 4/1)	補灰	良好		
142	B-7	洗鉢F	口架部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ			1条凹線		0.5mm大砂粒 多く含む。	黒 (10Y R 2/1)	黒 (7.5Y R 4/1)	左に同じ	良好		
143	B-7	洗鉢F	口架部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ			1条沈線		0.5mm大砂粒 多く含む。	黄灰 (7.5Y R 4/1)	黄灰 (7.5Y R 3/1)	灰濁	良好		
144	B-7	洗鉢F	胴部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ					0.5mm大砂粒 多く含む。	黄灰 (2.5Y 7/3)	黄灰 (2.5Y 6/1)	黄灰	良好		
145	B-7	洗鉢F	胴部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ					0.5mm大砂粒 若干含む。	黄灰 (7.5Y R 8/3)	黄灰 (7.5Y R 4/1)	灰濁	良好		
146	B-7	洗鉢F	胴部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ					0.5mm大砂粒 多く含む。	黄灰 (7.5Y R 4/1)	黄灰 (10Y R 5/2)	灰濁	良好		
147	B-7	洗鉢F	頸部 ~胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ					0.5mm大砂粒 多く含む。	黄灰 (7.5Y R 4/1)	黄灰 (7.5Y R 4/1)	左に同じ	良好		
148	B-7	洗鉢F	頸部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ					0.5mm大砂粒 多く含む。	黄灰 (7.5Y R 4/1)	黄灰 (7.5Y R 4/1)	灰濁	良好		
149	B-7	洗鉢F	胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ					0.5mm大砂粒 多く含む。	黄灰 (7.5Y R 4/1)	黄灰 (7.5Y R 4/2)	灰濁	良好		
150	B-7	洗鉢F	胴部	ヘラ磨キ	ヘラ磨キ			1条沈線		0.5-1mm大砂 粒多く含む。	にぶい 黄 (5 Y R 6/4)	にぶい 黄 (7.5 Y R 7/4)	にぶい 黄	良好		
151	B	洗鉢	口架部	ナデ	ナデ					0.5-2mm大砂 粒多く含む。	にぶい 赤濁 (5 Y R 5/4)	にぶい 赤濁 (5 Y R 5/4)	左に同じ	良好		
152	A-9		底部A	ナデ	ナデ					1mm大砂粒 含む。	にぶい 黄濁 (10Y R 7/4)	にぶい 黄濁 (10Y R 4/1)	灰濁	良好		
153	A-9		底部A	ナデ	ナデ					2.5-4.5mm大 砂粒多く含む。	にぶい 黄濁 (7.5Y R 5/4)	にぶい 黄濁 (7.5Y R 5/4)	灰濁	良好		
154	B-7		底部A	ナデ	割落					0.5-2mm大砂 粒多く含む。	にぶい 黄濁 (7.5Y R 5/4)	にぶい 黄濁 (10Y R 6/3)	にぶい 黄濁	良好		
155	B-6		底部A	ナデ	ナデ					0.5-2mm大砂 粒多く含む。	黄濁 (5 Y R 5/6)	黄濁 (7.5 Y R 6/3)	にぶい 黄濁	良好		
156	B-7		底部A	ナデ	ナデ					0.5-2mm大砂 粒多く含む。	にぶい 黄濁 (7.5 Y R 5/3)	にぶい 黄濁 (10Y R 6/1)	黄濁	良好		内面スチ 着
157	B-6		底部A	ヘラ磨キ	ナデ					0.5mm大砂 粒若干含む。	にぶい 黄濁 (10Y R 5/3)	にぶい 黄濁 (10Y R 6/1)	黄濁	良好		
158	B-6		底部B	ナデ	ナデ					0.5-2mm大砂 粒若干含む。	黄濁 (8/4)	黄濁 (2.5 Y 7/3)	黄濁	良好		
159	A-9		底部C	ナデ	ナデ					0.5mm大砂粒 含む。	にぶい 黄濁 (10Y R 7/4)	にぶい 黄濁 (10Y R 5/3)	にぶい 黄濁	良好		
160	B-7		底部C	ナデ	ヘラ磨キ					0.5-2mm大砂 粒含む。	にぶい 黄濁 (10Y R 7/4)	にぶい 黄濁 (7.5 Y R 3/1)	黄濁	良好		
161	B-6		底部C	ナデ	ナデ					1mm大砂粒 若干含む。	にぶい 黄濁 (7.5 Y R 6/4)	にぶい 黄濁 (5 Y R 6/4)	にぶい 黄濁	良好		
162	A-7		底部C	ナデ	ナデ					0.5-1mm大砂 粒含む。	にぶい 黄濁 (10Y R 7/4)	にぶい 黄濁 (10Y R 5/2)	灰濁	良好		
163	B-7		底部C	ナデ	ナデ					0.5-3mm大砂 粒若干含む。	明赤濁 (5 Y R 5/6)	明赤濁 (2.5 Y 4/2)	明赤濁	良好		

D 類 (122~123)

平縁の水平口縁部が若干内傾し、口縁部外面に2条の凹線と磨消縄文を施す。横方向のヘラナデを施す。

E 類 (124)

口縁部外面に1~2条の凹線を施し、胴部最大径のある屈曲部の上位に1条の凹線を施す。

F 類 (125~150)

口縁部の外面に1条の沈線を施し、横方向の丁寧なヘラ磨キを施す。

底 部

A 類 (152~157)

平底を呈する。

B 類 (158)

平底で、一旦内傾して折り返し胴部へ外反する。

C 類 (159~166)

高台風の上げ底である。

D 類 (167~175)

上げ底である。

小 結

以上のように縄文土器を深鉢A~G類、浅鉢A~F類に分類した。分類された土器の時期を従来の土器型式に当てはめると次のようになる。深鉢A類・浅鉢D類は西平式土器・磨消縄文系三万田式土器・陣内3・4類に、深鉢B・C類、浅鉢A・B類は羽状文系三万田式土器・陣内5類に、深鉢E類・浅鉢C類は御領式土器・陣内6・7・10類に相当し、後期後半の土器群である。深鉢D・F類は晩期前半の黒色磨研土器群であり、深鉢G類は刻目のない突帯文土器群である。

当遺跡のピークは、深鉢A類の西平式土器・磨消縄文系三万田式土器の時期と、浅鉢F類の晩期前半の時期である。これは調査区のA地区が前者を、B地区が後者を主体としていることも考えると、遺跡の性格を追究する上で興味ある事実である。

(2) 石器

打製石器としては、打製石鏃18点、石錐4点、扁平打製石斧点28、磨石2点、尖頭器1点が出土しており、扁平打製石斧の割合が50.9%と高い。石器の多くは、B-6・7グリッドから出土している。

打製石鏃（第13図 1～20）

打製石鏃は18点出土しており、ほとんどは凹基無茎鏃である。石材の内訳は、チャート10点、黒曜石4点、砂岩3点、頁岩1点であり、チャートが55.6%と割合が高い。チャートは高千穂町内のどこにでも露出しており入手容易なことと、かつ緻密質堅固で鋭利に整形することができることから利用されたと思われる。

石錐（第13図 21～24）

石錐は4点している。22はつまみをもち、錐部が非常に細長く精巧で、チャート製である。23・24はつまみをもち、錐部が短い。石材の内訳はチャートが3点、砂岩1点である。

扁平打製石斧（第14～19図）

扁平打製石斧は28点出土しており、長方形をした短冊形のものと同様のものに似た楕円形のものである。石材の内訳は、シルト岩19点、砂岩6点、頁岩3点であり、シルト岩が67.9%と高い。シルト岩は五ヶ瀬川の川原で入手可能である。

尖頭器（第18図 45）

45は木葉形尖頭器で表採品である。周辺部調整を両面に行っており、砂岩製である。

磨製石斧（第20図 56）

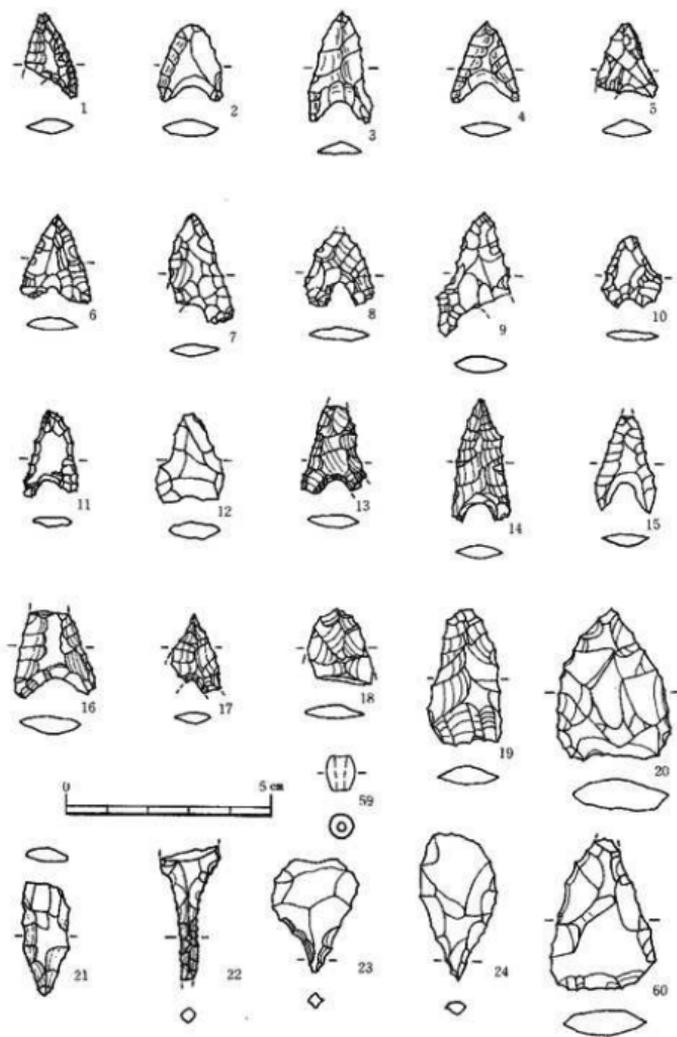
磨製石斧は56の1点だけで安山岩製である。刃部が欠損しており、表面がかなり風化している。

磨石（第20図 57, 58）

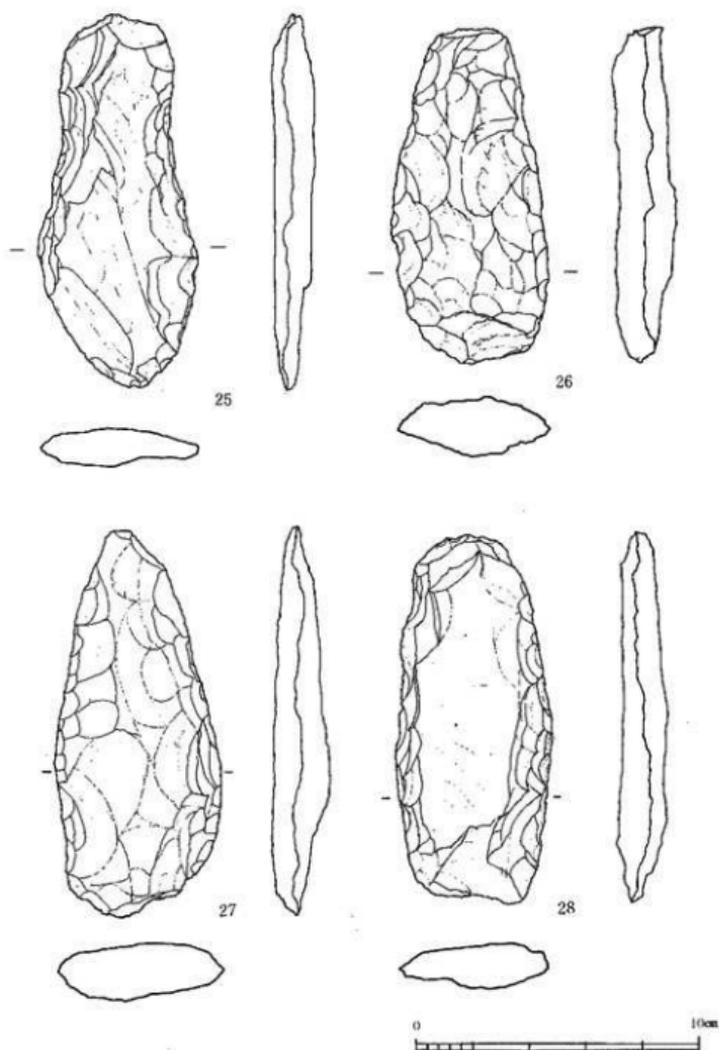
57は砂岩製で、全面磨りの痕跡を残す。58は石材は不明であるが、全面磨りの痕跡を残す。

玉（第13図 59）

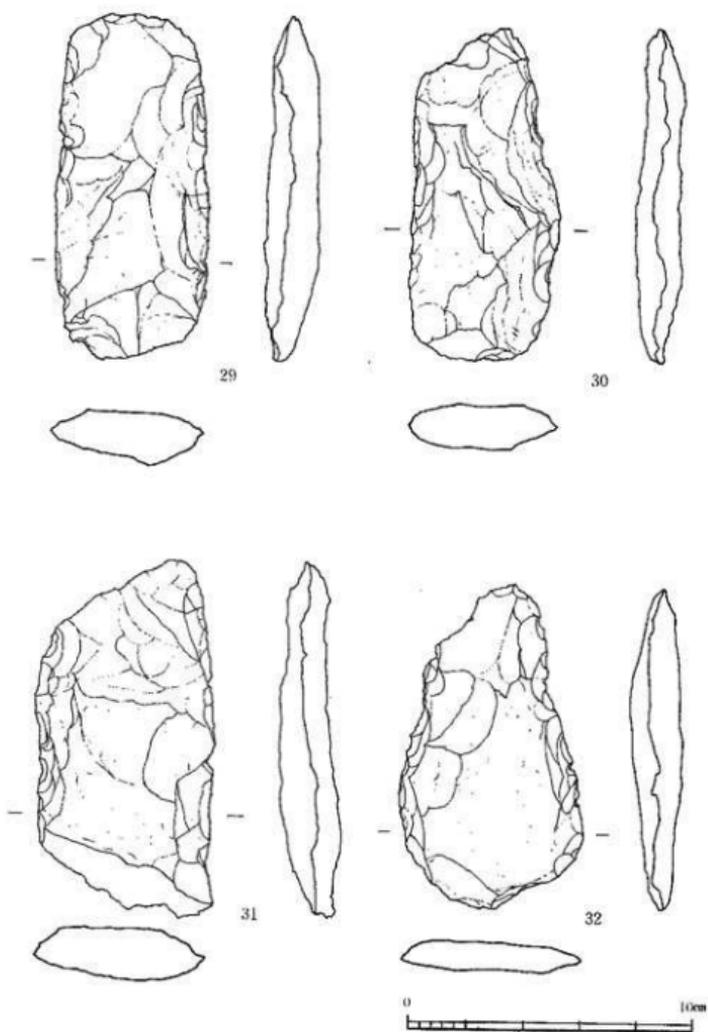
59は長さ8mm、最大幅6.5mmで、孔径3mmの片側穿孔を行っている。石材は不明であるが、緑色を呈する。



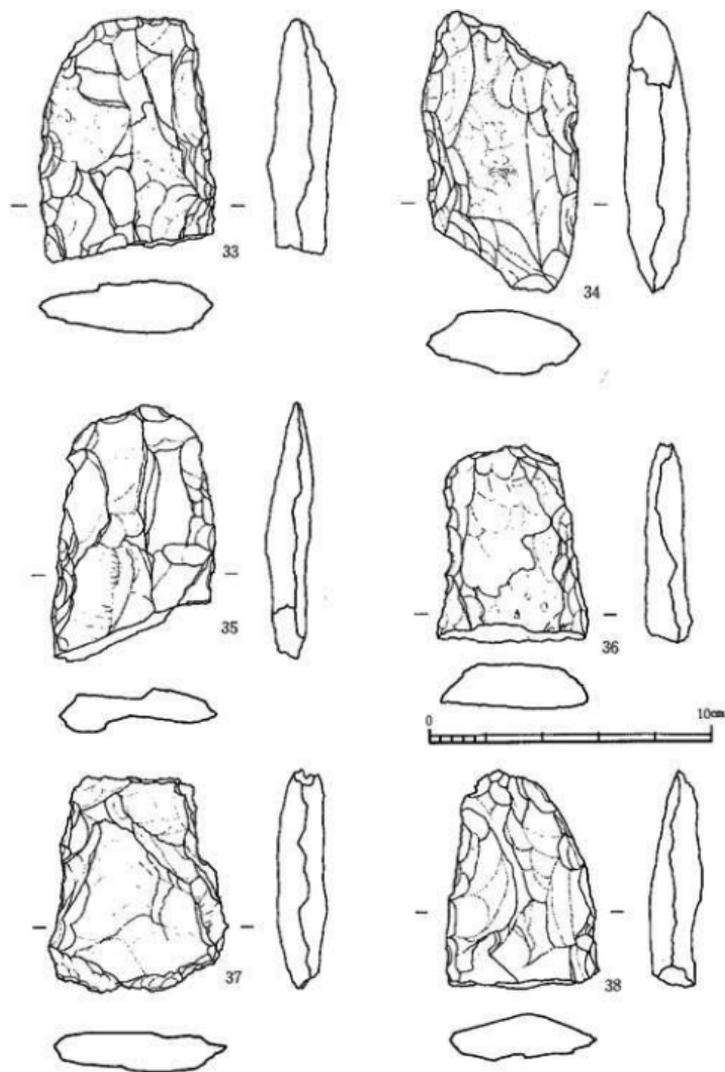
第13图 石器实测图(I) (缩小 $\frac{3}{4}$)



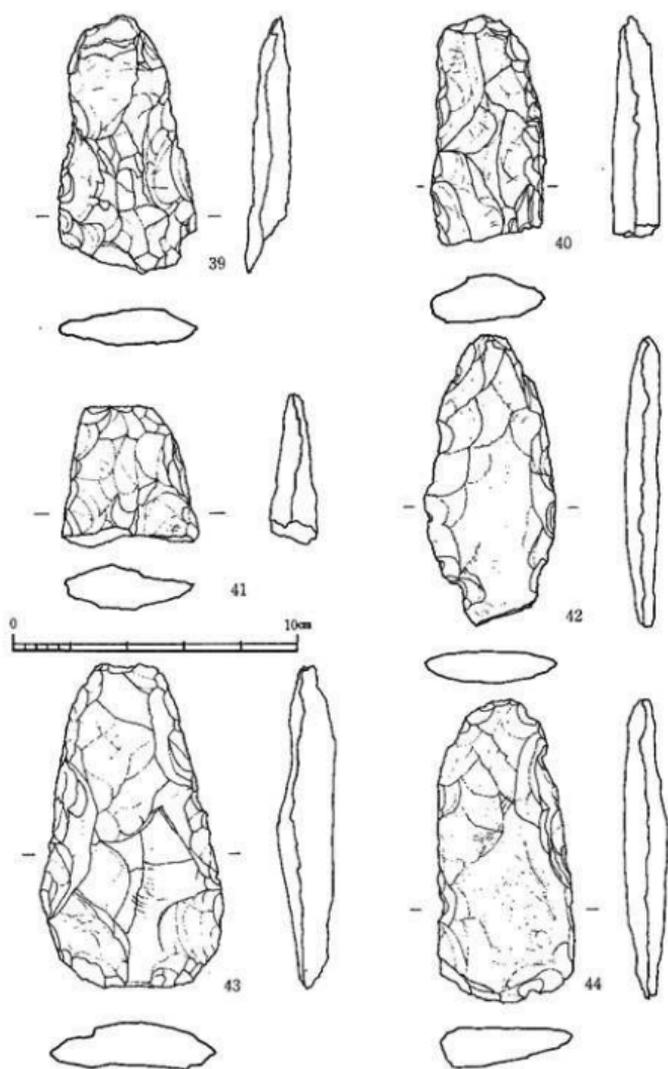
第14図 石器実測図(Ⅱ)(縮尺 $\frac{1}{2}$)



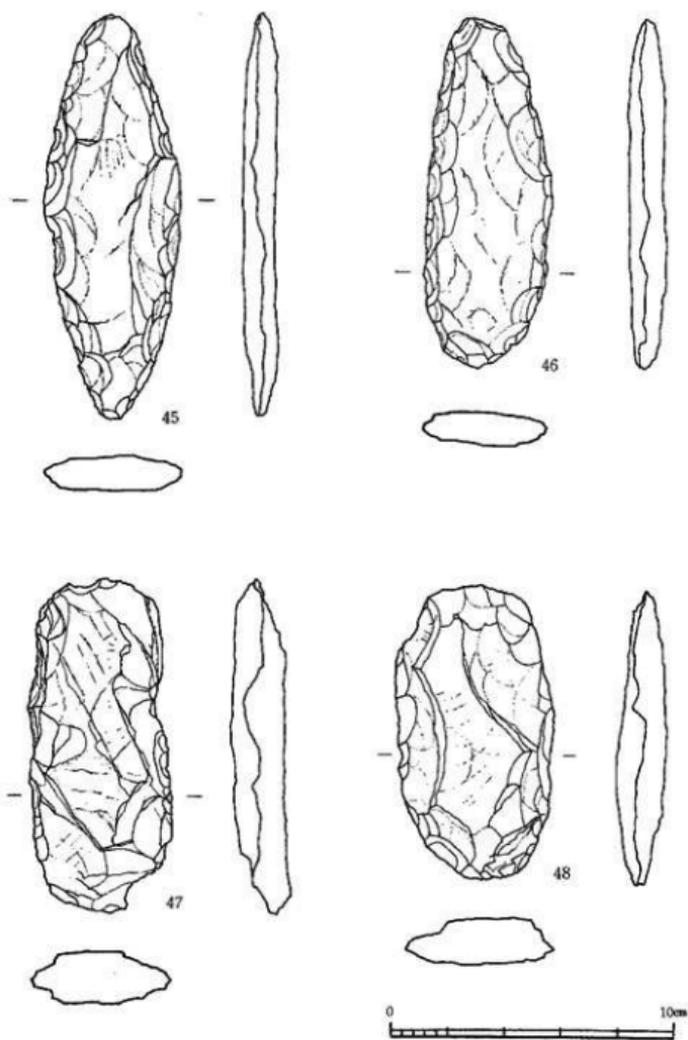
第15図 石器実測図(Ⅲ) (縮尺 $\frac{1}{2}$)



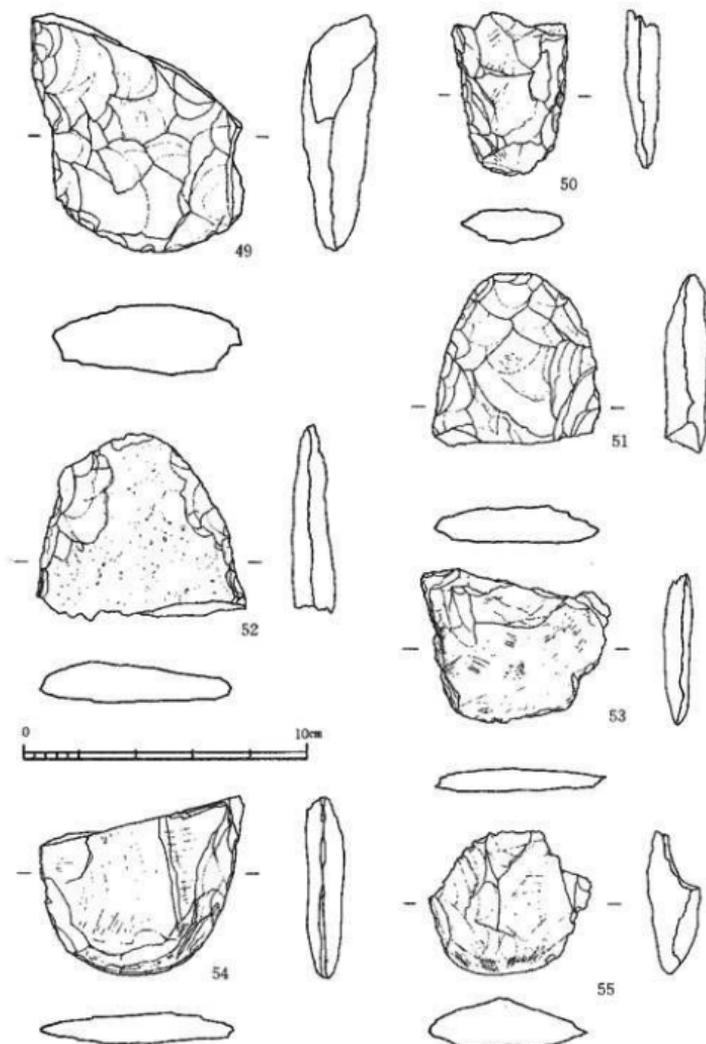
第16図 石器実測図(Ⅳ)(縮尺 $\frac{1}{2}$)



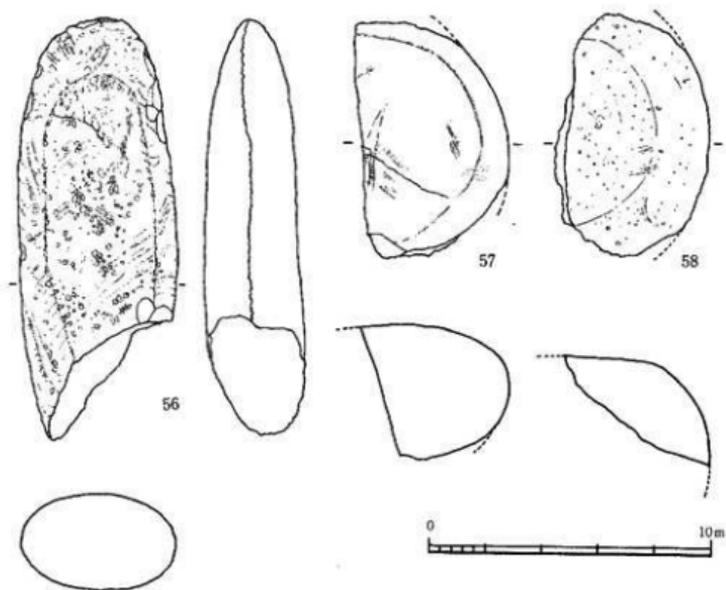
第17图 石器实测图(V) (縮尺 $\frac{1}{2}$)



第18図 石器実測図(VI) (縮尺 $\frac{1}{2}$)



第19图 石器实测图(Ⅶ)(缩尺 $\frac{1}{2}$)



第20図 石器実測図(VIII) (縮尺 $\frac{1}{2}$)

第3表 梅ノ木原遺跡出土石器観察表 (I)

番号	グリッド	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 質	備 考
1	A-7	打製石鏃	1.9	1.2+α	0.27	0.5	黒曜石	脚部欠損
2	A-7	打製石鏃	1.9	1.6	0.43	1.0	砂岩	
3	A	打製石鏃	2.7	1.5	0.40	1.4	チャート	
4	A-9	打製石鏃	2.0	1.7	0.30	0.7	チャート	
5	A-9	打製石鏃	1.8	1.5	0.40	0.7	チャート	
6	A-7	打製石鏃	2.1	1.6	0.30	0.9	チャート	
7	B-7	打製石鏃	2.6	1.3+α	0.28	0.9	チャート	脚部欠損
8	B-7	打製石鏃	1.8	1.6	0.30	0.7	チャート	
9	B-7	打製石鏃	3.1	1.4+α	0.49	1.3	チャート	脚部欠損
10	B-6	打製石鏃	1.7	1.4	0.23	0.7	頁岩	
11	B-6	打製石鏃	2.1	1.2	0.25	1.0	チャート	
12	B-7	打製石鏃	2.1	1.7	0.40	1.3	砂岩	
13	B-7	打製石鏃	2.1+α	1.6	0.27	0.8	黒曜石	先端部欠損
14	B	打製石鏃	2.9	1.3	0.30	1.2	チャート	
15	B-7	打製石鏃	2.3+α	1.5	0.26	0.8	砂岩	先端部欠損
16	B-7	打製石鏃	2.1+α	2.0	0.37	1.6	チャート	先端部欠損
17	B-7	打製石鏃	1.8	1.2+α	0.21	0.5	黒曜石	脚部欠損
18	B-7	打製石鏃	1.8+α	1.4+α	0.32	1.0	黒曜石	脚部欠損
19	B-7	打製石鏃	3.3	1.7	0.40	2.7	チャート	
20	B-7	打製石鏃	3.6	2.6	0.74	8.2	チャート	
21	B-7	石鏃	2.8	1.1	0.33	1.3	チャート	
22	A-7	石鏃	3.1+α	0.9+α	0.52	1.5	チャート	先端部と柄部欠損
23	A-9	石鏃	2.7	2.0	0.75	3.8	チャート	
24	B-7	石鏃	3.5	1.9	0.58	3.6	シルト岩	
25	B-3	扁平打製石斧	13.7	5.6	1.3	115.5	砂岩	
26	B-7	扁平打製石斧	11.8	5.4	2.1	148.5	シルト岩	
27	B-7	扁平打製石斧	13.6	5.8	1.9	165.0	砂岩	
28	B-3	扁平打製石斧	12.7	5.5	1.6	144.5	砂岩	
29	B-4	扁平打製石斧	12.2	5.4	1.8	146.5	シルト岩	
30	B-7	扁平打製石斧	11.7	5.2	1.5	110.5	シルト岩	
31	B-7	扁平打製石斧	12.5+α	6.1	1.9	165.0+α	シルト岩	刃部欠損
32	B-3	扁平打製石斧	11.3	6.3	1.0	130.5	シルト岩	
33	B-4	扁平打製石斧	13.0+α	6.1	1.9	137.5+α	シルト岩	刃部欠損
34	B-5	扁平打製石斧	8.9+α	5.3	2.2	146.5+α	シルト岩	

番号	グリッド	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 質	備 考
35	B-6	扁平打製石斧	7.9+α	5.5	1.3	68.7+α	シルト岩	刃部欠損
36	B-7	扁平打製石斧	6.9+α	5.3	1.6	75.0+α	シルト岩	刃部欠損
37	B-6	扁平打製石斧	7.4+α	6.1	1.4	86.5+α	砂岩	刃部欠損
38	B-7	扁平打製石斧	7.7+α	5.4	1.6	79.5+α	シルト岩	刃部欠損
39	B-2	扁平打製石斧	9.1	4.9	1.2	61.9	頁岩	
40	B-7	扁平打製石斧	7.9+α	3.9	1.6	63.5+α	シルト岩	
41	B-7	扁平打製石斧	4.6+α	4.8	1.6	36.2+α	シルト岩	
42	表採	扁平打製石斧	10.0+α	4.6	1.1	65.9+α	シルト岩	
43	表採	扁平打製石斧	11.3	6.4	1.5	137.0	シルト岩	
44	表採	扁平打製石斧	10.7	4.8	1.4	91.5	シルト岩	
45	表採	尖頭器	14.3	4.8	1.3	96.0	砂岩	
46	表採	扁平打製石斧	12.3	4.4	1.2	94.5	砂岩	
47	表採	扁平打製石斧	11.7	4.9	1.8	143.0	頁岩	
48	表採	扁平打製石斧	10.4	5.6	1.6	103.5	シルト岩	
49	表採	扁平打製石斧	7.0+α	6.7	2.4	160.5	シルト岩	
50	B-7	扁平打製石斧	5.6+α	4.0+α	1.2	29.7+α	頁岩	
51	A-6	扁平打製石斧	6.0+α	5.8+α	1.3	63.5+α	シルト岩	
52	B-7	扁平打製石斧	6.4+α	7.4+α	1.4	68.7+α	シルト岩	
53	B-6	扁平打製石斧	5.5+α	6.9+α	1.1	63.0+α	頁岩	
54	B-9		5.0+α	6.3+α	0.8	40.0+α	頁岩	
55	B-8		5.1+α	5.6	1.7	46.3+α	砂岩	
56	B-6	磨製石斧	13.3+α	5.6	3.4	402.0+α	安山岩	
57	A-6	磨石	5.1+α	8.2+α	4.6+α	253.5+α	砂岩	
58	B-6	磨石	5.5+α	8.4+α	2.5+α	149.0+α		
59	B-7	玉	0.8	0.65	0.5	0.5		

4. 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構としてはB地区で方形プランの竪穴住居が1軒検出されたが、A地区では斜面と耕作によって遺構は存在していなかった。遺物としては中期の下城式の甕の口縁や磨製石鏃などが出土した。

1号竪穴住居

1号竪穴住居は、B地区のB-4区で検出された。2.60m×2.58mの方形プランの住居で南側は削平されていた。主柱穴は北北西から南南東向きの2本柱である。竪穴住居の南隅から「工」字突帯の甕が、西隅から甕が出土した。

1号竪穴住居出土の弥生土器

1は、くの字口縁の直下に横方向の3条のミミズバレ状の突帯・縦方向の1条突帯・横方向の1条突帯を施し、ずん胴の胴部から先細り気味に底部に至る。内外面ともナデを施し、ススが胴部上位に付着する。1～2mm大の砂粒を多く含み、器壁は厚い。口径20.2cm、現高27.0cm。

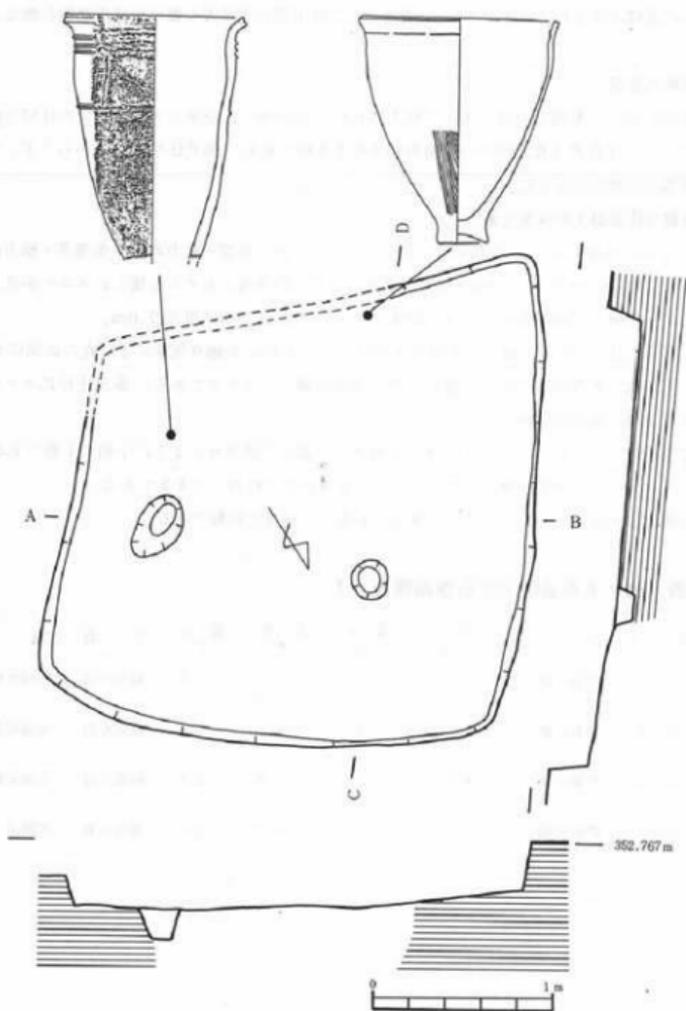
2は、非常に甘いくの字口縁で、胴部最大径は上位にあり、先細り気味に上げ底の底部に至る。胴部外面の下半はタテ方向のハケ目を施し、他の部位は横ナデとナデである。胴部上位にススが付着する。口径21.8cm、器高25.0cm。

1号住居外から出土しているのは、4の下城式の土器に代表されるように中期の土器である。10は1と同じミミズバレ状突帯の甕であるが、1が3条であるのに対して4条である。

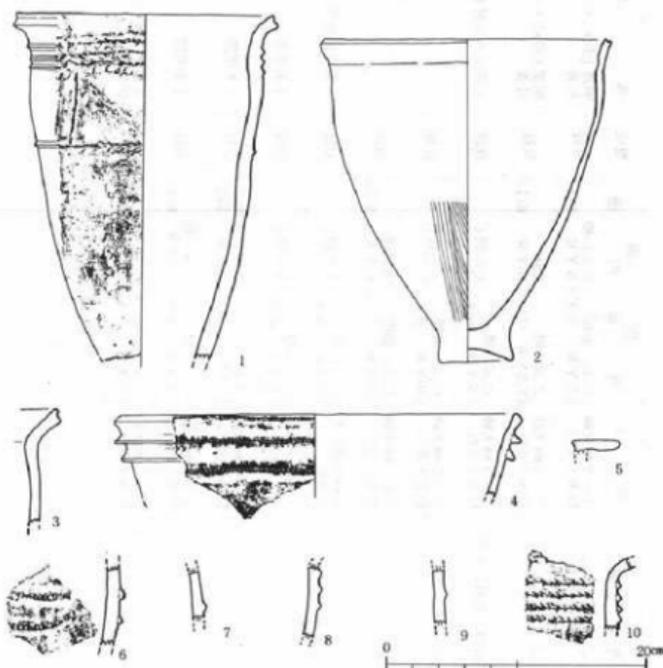
磨製石鏃は3点出土しており、すべて無茎の石鏃で、緑泥片岩製である。

第4表 梅ノ木原遺跡出土石器観察表(Ⅰ)

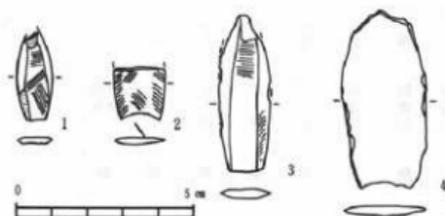
番号	グリッド	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
1	A-3	磨製石鏃	2.5+α	1.0	0.2	0.9	緑泥片岩	先端欠損
2	A-1	磨製石鏃	1.3+α	1.5	0.2	0.8	緑泥片岩	先端部欠損
3	B-7	磨製石鏃	4.4+α	1.5	0.25	2.6	緑泥片岩	先端欠損
4	表採	磨製石鏃	4.9	2.4	0.30	5.7	緑泥片岩	未製品



第21图 1号竖穴住居跡实测图(縮尺 $\frac{1}{50}$)



第22図 弥生式土器実測図(縮尺 $\frac{1}{4}$)



第23図 磨製石鏃実測図(縮尺 $\frac{1}{3}$)

第5表 梅ノ木原遺跡出土弥生土器

図面番号	グリット名	器種	器部	調		整		土	外	色	調		焼成	備	考
				外	内	内	内				内	内			
1	1号住居	甕	口縁部 ~胴部	横ナデ, 斜方向のナ デ	横ナデ, 斜方向のナ デ	横ナデ, 斜方向のナ デ	横ナデ, 斜方向のナ デ	1~2mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5 Y R 5/4)	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	良好	良好	胴部上位にスス 付着	
2	1号住居	甕	口縁部 ~底部	横ナデ, 斜方向のハ ケ目	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	2~4mm大砂 粒多く含む。	にぶい橙 (7.5 Y R 7/4)	黒灰 (10 Y R 6/1)	にぶい橙 (10 Y R 6/1)	良好	良好	胴部上位にスス 付着	
3	1号住居	甕	口縁部 ~胴部	ナデ, 斜方向のハケ目	横ナデ, 斜方向のハケ目, ナデ	横ナデ, 斜方向のハケ目, ナデ	横ナデ, 斜方向のハケ目, ナデ	1~3mm大砂 粒多く含む。	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	左に同じ	左に同じ	良好	良好	上位にスス付着	
4	A-4	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	2~3mm大砂 粒若干含む。	にぶい黄緑 (10 Y R 6/4)	左に同じ	左に同じ	良好			
5	B-6	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	0.5~1mm大砂 粒多く含む。	にぶい黄緑 (10 Y R 7/4)	黒炭粒 (10 Y R 8/3)	にぶい黄緑 (10 Y R 8/3)	良好			
6	A-5	甕	胴部	横ナデ, ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	1mm大砂粒若 く含む。	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	左に同じ	左に同じ	良好	2条割目突帯		
7	B-6	甕	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	0.5mm大砂粒 多く含む。	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	左に同じ	左に同じ	良好	1条突帯		
8	B-7	甕	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	0.5~2mm大砂 粒多く含む。	黒褐色 (7.5 Y R 3/2)	にぶい赤褐色 (5 Y R 5/3)	にぶい赤褐色 (5 Y R 5/3)	良好	3条突帯		
9	B	甕	胴部	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	0.5~4mm大砂 粒多く含む。	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	にぶい橙 (7.5 Y R 6/4)	にぶい橙 (7.5 Y R 6/4)	良好	1条突帯		
10	B-5	甕	口縁部 ~胴部	ナデ, 横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	1~3mm大砂 粒多く含む。	にぶい赤褐色 (5 Y R 5/4)	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	にぶい橙 (5 Y R 6/4)	良好	4条ミズスレ 状突帯		

第Ⅲ章 ま と め

梅ノ木原遺跡の調査は、県道の拡幅部に限られたため遺跡の性格まで把握することは困難であったが、A地区では縄文後期後半の土器群が、B地区では縄文晩期前半の土器群が検出された。またB地区では弥生後期中葉の竪穴住居が検出された。

(1) 縄文土器について

日向における縄文後・晩期の編年は、良好な遺跡の少なさと地域性を取捨して綾式一下弓田式—陣内式—松添式と位置付けられた¹¹⁾。宮崎平野部では、1980年以降、学園都市遺跡群の平畑遺跡(宮崎市)で55軒の竪穴住居が調査され、松添式の前段階の陣内式併行とその次の土器群が解明されたが¹²⁾、県北の山間部とは様相を異にしている。当地では、鈴木重治氏が後・晩期を8類に分類¹³⁾して以来、陣内遺跡では1967・1980年に調査されたが、未報告のまま鈴木氏の分類を再検討する機会を失っている。前回のセベツ遺跡¹⁴⁾の調査でも土器量が少なかつたためほとんど行いことができなかつた。今回の調査の場合は、包含層として層序的に把握することはできなかつたが、後期後半の西平式土器・磨消縄文系三万田式土器から晩期前半の刻目のない突帯土器まで追うことができた。当遺跡の土器分類を隣接地域の大野川中流域や熊本と比較すると第6表のようになる。

第6表 梅ノ木原遺跡出土縄文土器編年対比表

(坂元嘉弘「大野川中流域における縄文後期後半の編年」1983を一部加筆)

	梅ノ木原		陣内	大野川中流域	熊本(富田編年)
後 期 後 半				北久根山・片粕期	
				松木期	
	深鉢A	浅鉢D	陣内3・4類	西平期	西平
				惣田期	太郎迫 (磨消縄文系三万田)
	深鉢C	浅鉢A	陣内5類	駒方C期	三万田 (羽状文系三万田)
	深鉢B	浅鉢B		内河野期	
	深鉢E	浅鉢C	陣内6類(陣内式) 陣内7・10類	夏足原期	鳥居原 御領
晩 期 前 半	深鉢D		陣内8・9類	宮地前I期	
	深鉢F	浅鉢E		宮地前II期	
		浅鉢F		宮地前III期	
	深鉢G			宮地前IV期	

(2) 弥生土器について

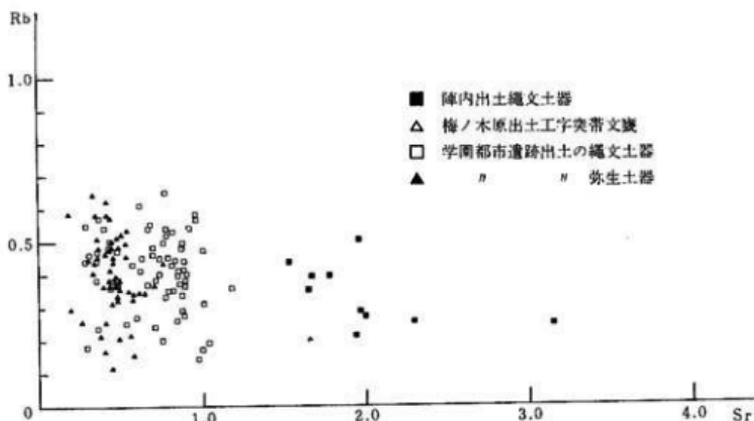
1号住居から出土した工字突帯文の粗製甕は、五ヶ瀬川上流域、大野川上・中流域に分布する特異な土器である。北郷泰道氏は、薄糸平遺跡では突帯の第Ⅱ類、沈線の第Ⅱ類、ミミズバレ状突帯の第Ⅳ類に分けたが、⁸⁴ 時間的にはあまり触れなかった。しかし、再考を行ってミミズバレ状突帯をⅠ式、突帯をⅡ式、沈線をⅢ式として、Ⅱa式（後期初頭）→Ⅰ式・Ⅲ式（後期中頃）→Ⅱb式（後期中頃～後半）に時期比定した。⁸⁵ 大野川上・中流域では沈線が後期前葉、突帯が後期中葉に比定されている。⁸⁶ 1号住居出土のミミズバレ状の工字突帯の粗製甕は、プロポジションと文様形態から高橋徹氏編年のⅡ期古段階に相当し、後期中葉に比定される。

(3) 竪穴住居について

竪穴住居の時期は、床面直上で出土した工字突帯文の粗製甕から弥生後期中葉に比定される。当地域の竪穴住居の検出は、セベツ遺跡⁸⁷で縄文晩期前半の住居が1軒検出されたが、弥生時代のものは初めてである。一辺2.6mの方形プランの住居で、床面積は6.8m²と小形である。日向における後期の住居としては日向型間仕切り住居を特徴としているが、県北部では越シ遺跡⁸⁸（日向市）を北限としており、当地域では検出されていない。

(4) 胎土分析について

蛍光X線分析による胎土分析によって大きな成果を挙げている三辻利一氏の分析によれば、縄文土器では陣内遺跡がRb0.20~0.50, Sr1.5~3.2であるのに対して、学園都市遺跡群がRb0.12~0.65, Sr0.3~1.2であり明瞭に分かれる。また弥生土器では当遺跡1号住居出土の工字突帯文の甕がRb1.56, Sr0.197であるのに対して、学園都市遺跡群はRb0.20~0.90, Sr0.10~0.80であり明瞭に分かれる。つまり地域によって胎土が異なることは、器種によって使い分けられる場合もあるが、地域の地質によることもあり、注目される事実である。



第24図 陣内・梅ノ木原・学園都市遺跡出土土器のRb-Sr分布図

(5) 石器について

当遺跡の石器組成では扁平打製石斧が50.9%と割合が高く、その多くはシルト岩を石材としていた。また打製石鎌はチャートを石材として利用しており、石材の選択は遺跡周辺の露頭や川原で容易に採取できる石材の中から石器の機能・形態・製作技術との関連を考慮して行われている。

今回、土器の絶対量の不足のために十分行うことができなかった当地域における縄文後・晩期土器の編年は1967・1980年の調査された資料が整理・公表された後、再検討を行いたいと思う。また弥生後期の土器も薄糸平遺跡の調査以降資料が増加していないが、大野川上・中流域の調査成果を踏まえて、当地域の編年を行う必要がある。

註

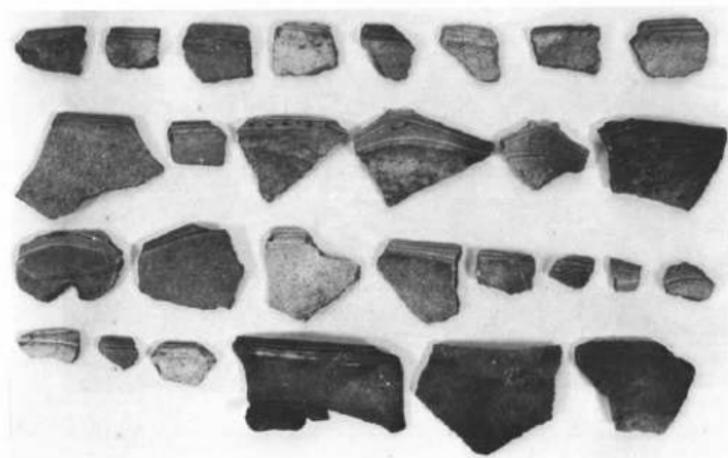
- (1) 鈴木重治「陣内式の設定をめぐる」『陣内遺跡』1962
- (2) 宮崎県教育委員会「平畑遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第2集』1985
- (3) 鈴木重治「土器及び土製品」『陣内遺跡』1962
- (4) 現在、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで整理が行われている。
- (5) 永友良典「宮崎県陣内遺跡について」『海と里と山の考古学』1983
- (6) 高千穂町教育委員会『セベット遺跡』1984
- (7) 坂元嘉弘氏の「大野川中流域における縄文後期後半の編年」(『海と里と山の考古学』1983)の編年案対比表を一部改変、加筆した。
- (8) 北郷泰道氏は「祖母・傾山系山岳地域論序説」(『考古学研究』99号 1978)の中で工字突帯文の粗製を下城式からのかなりの角度をもった転化ないし転移の産物として、その間に〈空白の過渡期〉が存在することを指摘した。
- (9) 高千穂町教育委員会『薄糸平遺跡』1977
- (10) 北郷泰道「薄糸平遺跡出土弥生式土器・再論」『宮崎考古』第4号 1978 註(8)文献
- (11) 大野町教育委員会『大野原の遺跡』1980
- (12) 高橋 徹「商業された鏡片」『古文化談叢』第6集 1979
- (13) 註(6)に同じ。
- (14) 北郷泰道「結語—住居の変遷にふれて」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅲ 1982
長津宗重「日向型間仕切り住居研究序説」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (15) 1984年に日向市教育委員会によって調査が行われた。緒方博文氏の御教示。
- (16) 三辻利一「宮崎学園都市遺跡出土土器の胎土分析」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985



図版1 梅ノ木原遺跡空中写真



発掘調査状況 (A地区)



深鉢A類



深鉢A類



深鉢B～F類



深鉢G類・浅鉢A類



浅鉢B～E類

図版5 縄文時代の石器(I)



打製石鏃・石錐



扁平打製石斧



扁平打製石斧・尖頭器



打製石斧・磨製石斧・磨石



1号竪穴住居跡



1号竪穴住居出土弥生土器・磨製石鈿

高千穂町文化財調査報告書 第4集
梅ノ木原遺跡

発行年月 昭和60年3月

編集・発行 宮崎県西臼杵支庁
高千穂町教育委員会

印刷 藤屋写真印刷株式会社

